

令和 6 年度 学校評価

教員自己評価

学校関係者評価

報告書

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 学校評価 実施要項 | p2~3 |
| 2. 教員自己評価の概要 | p4~5 |
| 3. 教員自己評価の詳細と学校関係者委員の意見 | p6~52 |



常葉大学附属

橘中学校・高等学校

令和 7 年 3 月 31 日

令和6年度常葉大学附属橘中学高等学校「学校評価」実施要項

1. 「学校評価」の実施目的と定義

(1) 実施目的

① 学校運営の組織的・継続的な改善

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組について評価することにより学校として組織的・継続的な改善を図る。

② 保護者・学識関係者等との連携協力による学校づくり

各学校が、自己評価および保護者など学校関係者による評価の実施とその結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者から理解と助言を得ながら学校作りを進める。

③ 教育水準の保証と向上

各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより教育力の向上を図る。

(2) 定義

① 教員自己評価

学校評価の最も基本となるものであり、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。

② 学校関係者評価

保護者、地域住民、その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。

2. 「教員自己評価」の実施

(1) 実施目的

① 学校の実情に応じた創意工夫 → 学校の長所と課題を踏まえた取組み

② 評価項目の精選 → 意識的に取り組めるように絞り込む

③ 学校として組織的に取り組む → 優れた教員集団となり「教育の質」「学校の質」の向上に繋げる

(2) 重点目標（教員対象） … 「教員の資質向上」

① 教師の資質向上(優れた教員集団を目ざす)、「教育の質」「学校の質」の向上

② 生徒・保護者の学校満足度・愛校心を高める

(3) 「教員自己評価」と目標達成のための実践

① 「学校自己評価」の目的と重点目標、評定項目(実践目標)を十分理解し、「教員自己評価表」の「評定要素(1)～(10)」評定項目を4～1の4段階で自己評価し提出する。

- 第1回教員自己評価表の提出【9月5日(木)配布→9月18日(水)締め切り】
Classiにて回答する。
- 第2回教員自己評価表の提出【令和7年1月23日(木)配布→2月5日(水)締切】
第1回自己評価と比較しながら、Classiアンケートにて回答する。第2回は評価理由を記載する。(1回目の自己評価については、個票を配布する。)

② 教員自己評価の公表 [3月末～4月上旬]

報告書を作成し職員会議で報告・検討する。また、設置者(理事長)へ報告後、HPに掲載する。

3. 令和6年度 学校関係者評価の流れ(概略)

- (1) 学校関係者評価委員への依頼 … 2月上旬
- (2) 学校関係者評価 … 3月上旬実施(4名)
- (3) 結果報告・公表 … 3月末～設置者(理事長)に報告後、HPに掲載 5月下旬～私学振興課に報告

令和6年度教員自己評価概要(次ページ)の摘要

- ※1【自己評価の平均スコア】 専任教員73名(管理職・ALT・非常勤を除く)による4段階(1～4 4が最高)の自己評価スコアを平均した値
- ※2【項目別の評価の基準】 第2回自己評価平均が3.30以上=A、2.70～3.29=B(3.21以上はB+ 2.79以下はB-)、2.00～2.69=C、1.99以下=Dと評価
- ※3【要素別の評価の基準】 ※2の評価をもとに判定
- ※4【学校関係者評価委員】 P T A役員、近隣町内会役員、大学教員、卒業生保護者の4名

2. 令和6年度 常葉大学附属橘中学高等学校 教員自己評価の概要

No.	評定要素	評価項目	自己評価の平均スコア※1		変化 ②-①	項目別の評価 ※2	要素別の評価 ※3	参考 昨年度要素別の評価
			第1回 (10月) ①	第2回 (2月) ②				
1	教育職員としての自覚	1.所属校の教育目的・教育目標、教育方針の理解	3.55	3.55	0.00	A	A	A
		2.教育職員としての品位・礼節	3.57	3.58	0.01	A		
		3.教育力向上のための積極的な取り組み	3.20	3.17	-0.03	B		
2	勤務状況・勤務態度	1.学務および事務的業務の確実性	3.42	3.48	0.07	A	A	A
		2.情報管理および貴重品管理	3.60	3.56	-0.05	A		
		3.他の職務・領域への協力的姿勢	3.17	3.02	-0.15	B		
		4.自己の職務への責任と改善	3.45	3.56	0.10	A		
3	学校運営 分掌課長、学年主任、科・コース主任、教科主任	1.教育目的・目標・方針に沿った企画・運営	3.37	3.33	-0.04	A	B	A
		2.新しい企画や工夫・改善策の提案	3.00	3.19	0.19	B		
		3.職務全般の掌握とリーダーシップ	3.06	3.06	0.00	B		
		4.会議等への積極的な参加	3.44	3.59	0.14	A		
4	学級指導 学級担任	1.生徒理解と掌握	3.38	3.34	-0.04	A	A	B
		2.教室内の整理・整頓・清掃・私物管理の指導	3.21	3.29	0.08	B+		
		3.学習意欲を高める指導	3.13	3.32	0.19	A		
		4.行事への取り組み	3.44	3.74	0.30	A		
		5.校則・マナー指導	3.05	3.11	0.06	B		
		6.進路指導	3.31	3.39	0.09	A		
		7.保護者との信頼関係	3.33	3.37	0.04	A		
5	副担任	1.学年業務への取り組み	3.35	3.43	0.08	A	B+	B
		2.学級経営への補佐	3.21	3.23	0.02	B+		
		3.生徒理解	3.14	3.15	0.01	B		

No.	評定要素	評価項目	自己評価の平均スコア※1		変化 ②-①	項目別の評価 ※2	要素別の評価 ※3	参考 昨年度要素別の 評価
			第1回 (10月) ①	第2回 (2月) ②				
6	学習指導	1.指導者としての専門的な知識・技能	3.06	3.04	-0.02	B	B+	B
		2.授業力向上の努力	3.32	3.35	0.03	A		
		3.小テストや課題の実施	3.43	3.54	0.10	A		
		4.教材研究、教科研修への取り組み	3.15	3.14	-0.01	B		
		5.補習などの課外指導	2.88	3.00	0.12	B		
7	進路指導・生徒指導	1.面談等による高い進路目標を持たせる指導	3.00	3.08	0.08	B	B	B
		2.生徒の学力、特性を伸ばす指導	2.94	3.10	0.15	B		
		3.生徒の心情・行動の理解	3.44	3.49	0.05	A		
		4.生徒・保護者の信頼獲得	3.19	3.06	-0.13	B		
		5.進路情報の活用	3.06	3.06	0.00	B		
		6.各種検定(英検、漢検、数検など)の呼びかけ	2.98	3.04	0.06	B		
		7.生活指導(校則・マナー、提出物)	3.19	3.15	-0.03	B		
		8.学習環境指導(清掃、私物管理)	3.23	3.25	0.02	B+		
8	いじめ対策	1.生徒観察、情報収集による兆候発見	3.49	3.47	-0.02	A	A	B+
		2.「いじめ防止基本方針」にそった速やかな対処	3.51	3.34	-0.17	A		
9	教育活動に伴うリスクマネジメント	1.教員が利用するSNSガイドラインの遵守	3.77	3.87	0.09	A	A	A
		2.学校リスクの理解と安心安全への取り組み	3.68	3.67	-0.01	A		
10	特別活動 部活動、生徒会活動、委員会活動	1.活動目的・目標の明確化	3.33	3.35	0.03	A	A	A
		2.技術的指導+生活指導	3.25	3.27	0.02	B+		
		3.生徒・保護者の心情理解	3.19	3.12	-0.07	B		
		4.適切な休日や学習時間の確保	3.54	3.67	0.13	A		
		5.用具や備品の管理	3.29	3.40	0.11	A		
		6.運営資金の管理・適切な運用	3.65	3.61	-0.05	A		
			平均点	3.29	3.33	0.04		
			令和5年度	3.28	3.27	-0.01		
			令和4年度	3.22	3.26	0.08		
2024年3月1日								

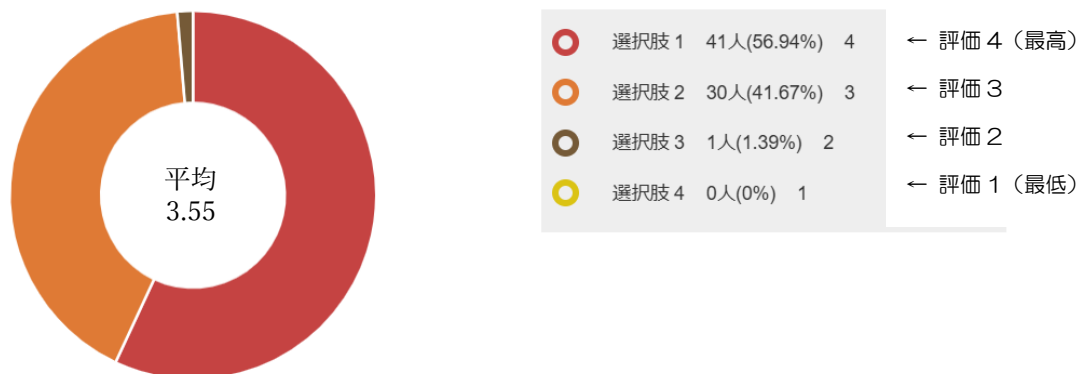
3. 教員自己評価の詳細と、自己評価に対する学校関係者評価委員の意見

評定要素 1 私立教育職員としての自覚 【評価 A】

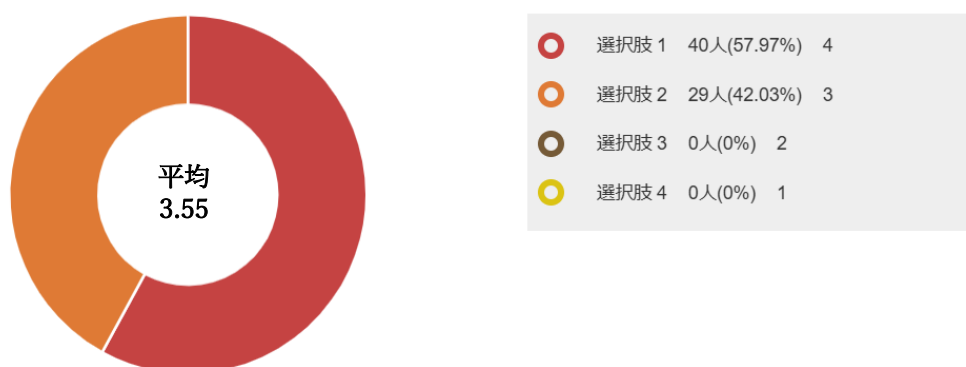
1-1. 所属校の教育目的・教育目標・教育方針をよく理解して教育活動を行ったか【評価 A】

- 本校の教育目標や方針を常に意識することができた。(多数)
- 学校の教育目標や方針をはじめ、分掌、学年、科コースなど、さまざまな組織から提示される目標や具体的な指導方針を理解して、学校のために自分がやるべきこと、役割等を考えながら、教育活動を行っている。
- 本校のグラデュエーションポリシーをもとに、社会に貢献できる生徒、自分自身の人生を楽しめる生徒を育てられるよう、常に意識して授業やクラス運営を行うことができた。
- 行事の要項にスクールミッションを意識した目的が入っており、方針を確認することができた。
- 人間性の成長のために、生徒に前向きな声掛けを実施した。また、学習についても努力を向けられるよう声掛けを行い、主体的に授業に参加するようにその機会を授業内に設定した。
- 授業では研修や研究授業での振り返りをもとに、授業を進めていきました。また、行事には多く携わることができ、教育目標を掲げ生徒たちに協働力や課題解決力が身につくように行事を進められた。
- 基本的に目的・目標に則り活動してきたつもりですが、美術専攻として中高大連携（常葉大との連携）ができなかったことがマイナスであった。

2024年9月調査時の教員自己評価グラフ



2024年2月調査時の教員自己評価グラフ



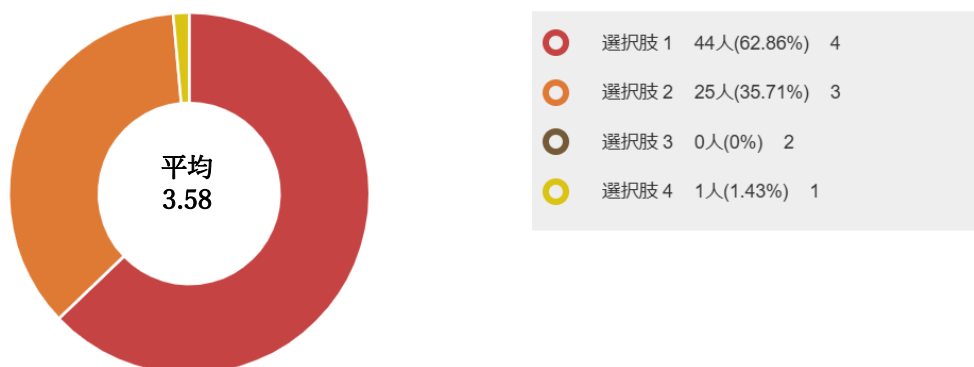
1-2. 教育職員としての品位・礼節を保ち、教育活動に当たっているか 【評価 A】

- 常に、私学の教員としての自覚を持って行動している（多数）。
- 私学の教員としての自覚を持って常に行動している。生徒募集につながるような教育活動になるよう心掛けている。学校説明会などのイベントにおいても、高い意識を持って自分の役割を果たそうと努めている。
- 教員の言動が生徒に大きな影響を与えることを常に意識して教育活動に当たった。また、挨拶をもっと活発な学校にしたいと思い、廊下などでは積極的に生徒に挨拶をした。
- 最近のニュースや研修の内容を常に自分事として受け止め、教員としての立ち振る舞いに気を付けながら活動できた。
- コンプライアンス研修等により、意識の向上がされていると感じている。
- 時に生徒の前で感情的になってしまうことがあった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



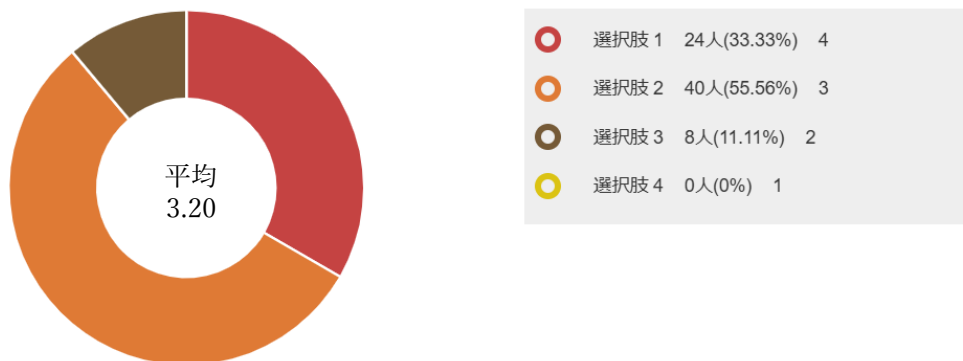
2月調査時の教員自己評価グラフ



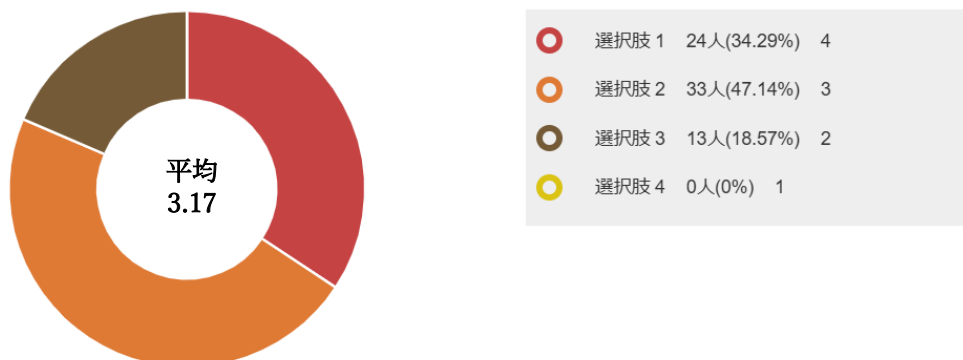
1-3. 研修などに積極的に取り組み、教育力向上に努めたか 【評価 B】

- 研修では、取り上げられたテーマに関してどのようにすれば問題を解決できるのか・問題発生背景は何かなど、普段あまり話さない先生方と積極的に話し、自身の知見を広げることに取り組んだ。
- 外部研修には行くことができなかったが、校内や法人での研修において目的や課題を意識して参加し、教育活動に反映できそうな点は自らを省みて改善に努めた。
- 1年次研修など、予め用意されていた研修は前向きに組み、今年度は授業力向上月間で他校への授業視察などを積極的に行うことができた。
- 夏休み中にオンライン講習を受けたり、出版社から授業力向上のための本を購入したり、少しでも自分自信の教員としての質を上げようと努力した。もう少し頻繁に研修に参加できるようにしたい。
- ICTや探究活動中心にオンライン研修に積極的に参加した。
- 同じような研修に対してはやや消極的になった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素1に対する学校関係者の評価

- 総じて、教育目的・教育目標・教育方針に則って活動されていると感じた。
- 教職員からは私立らしい品位・礼節を感じた。
- 保護者にも教育目的や方針が浸透するよう、親学などの研修を取り入れていきたい。
- 先生方の意識的な声かけや配慮が感じられる。
- 目標に向かって努力していることが伺える。

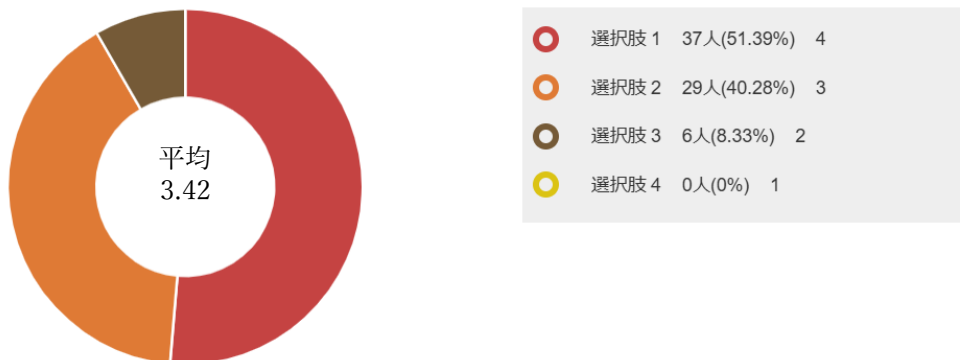
- 中高大一貫した教育方針が望まれる。
- 教員としての自覚の高さが伺える。
- 研修には積極的な取り組む姿勢が見える。
- 教育目標や教育方針については、教育職員間でよく共有されており、十分な理解がはかられている。その理解の深さが、教育職員としての品位や礼節につながっていると考えられる。
- 昨今の教育界における多忙化や煩雑化等の影響があり、研修等の自己研鑽の時間がなかなかとれない状況がうかがえる。
- 学校全体の研修計画だけでなく、教育職員が各自で個人研修計画を立て、それに沿った評価・振り返りが実施出来るようなシステムの構築が望まれる。

評定要素2 勤務状況・勤務態度 【評価 A】

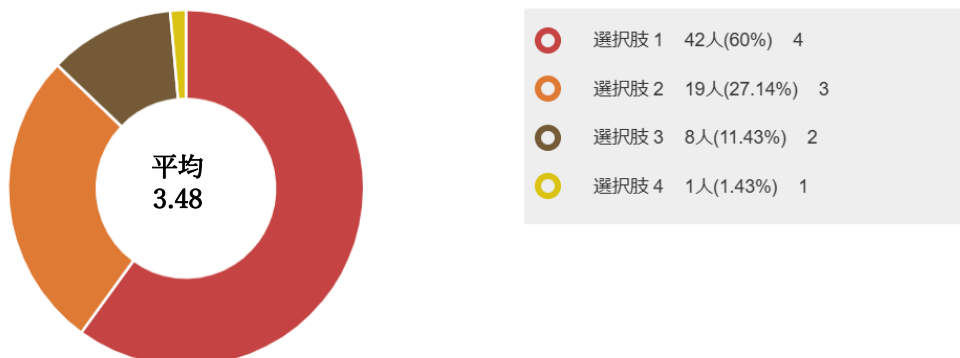
2-1. 学務および事務的業務は期日を守り適切に行ったか 【評価 A】

- 期日を意識し、遅延なく行うことができた。(多数)
- 転任 1 年目の為、業務方法の戸惑いが多々あったが周りの先生方に聞いたり協力してもらい行動した。
- 業務上の期日を先生方に守ってもらえるように、リマインドや中間報告等の行動をもっとすべきだったと感じている。
- 出退勤の申請などで至らぬ点が多かったのも事実である。事務の方や管理職に迷惑をかけることがないように、自己管理を徹底していきたい。

9月調査時の教員自己評価グラフ



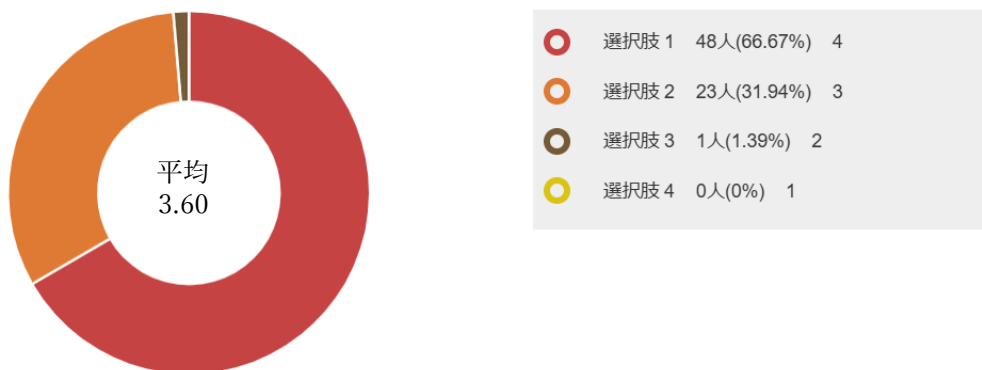
2月調査時の教員自己評価グラフ



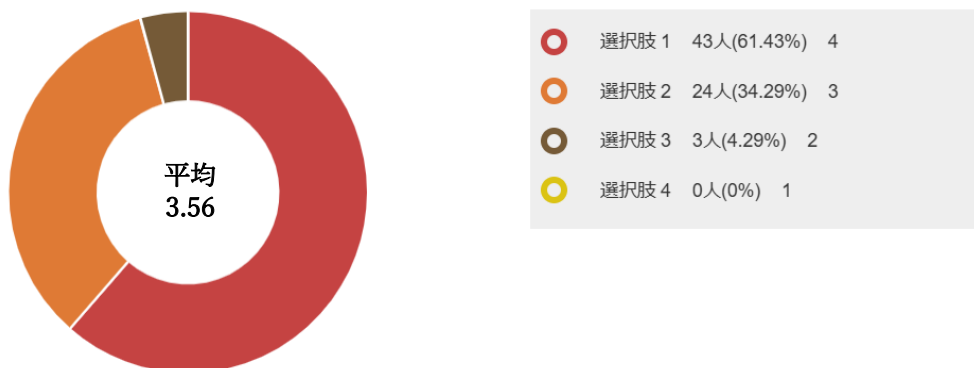
2-2. 情報管理および貴重品管理は適切に行ったか 【評価 A】

- 情報管理と貴重品管理については細心の注意をはらっていた。(多数)
- 生徒名が入った資料や名簿はシュレッターをする、USB の管理を徹底するなど、情報管理を意識して仕事を行うことができた。
- 昨今メディアでもよく取りざたされるので、置き忘れなどのヒューマンエラーがないように注意した。
- 使用した書類はシュレッダーにかけ、生徒から預かった貴重品は速やかに金庫へ入れた。重要書類・パソコンは職員室の机上でなく、鍵のかかる引き出しにしまった。
- 生徒たちの貴重品管理も注意を払って行った。

9月調査時の教員自己評価グラフ



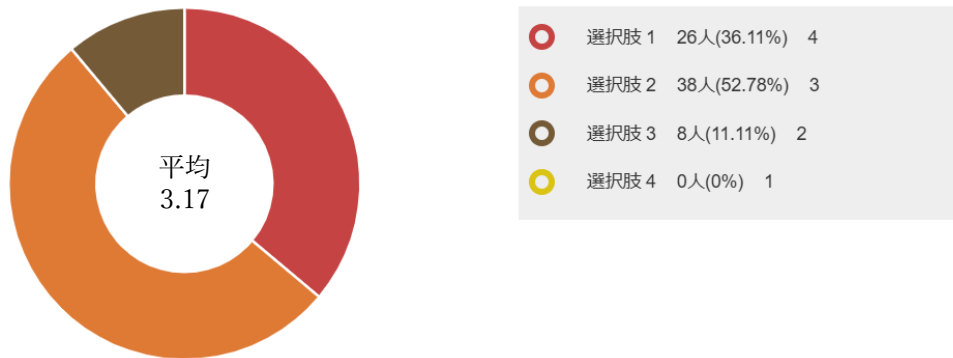
2月調査時の教員自己評価グラフ



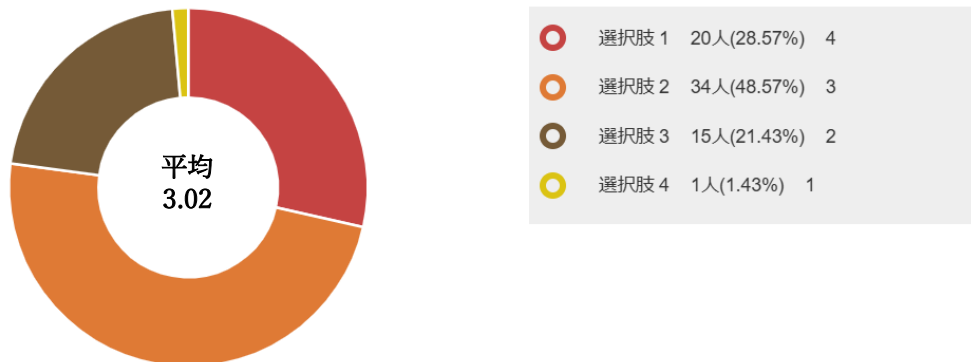
2-3. 他の職務・領域にも進んで協力できたか 【評価 B】

- 学年の先生がかかわることになるべく気を配ったつもりである。領域を良い意味で気にせず、全体を見て仕事をするように心掛けた。
- 自分で気づけた部分は積極的に先生方へお声掛けをし協力的な姿勢を示すことができたと思う。もう少し視野を広げ、自分のスキルアップも含めて様々な方面で協力していきたい。
- 自分の業務で手一杯で、他の職務・領域まではできていなかった。(多数)
- 橘中学全体を引っ張ることを意識して勤務した。積極的に協力できたと感じている。
- 土曜日・日曜日に部活動指導等がないので、模試の監督を積極的に引き受けました。その他にも自分から声をかけ、できることを行っている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



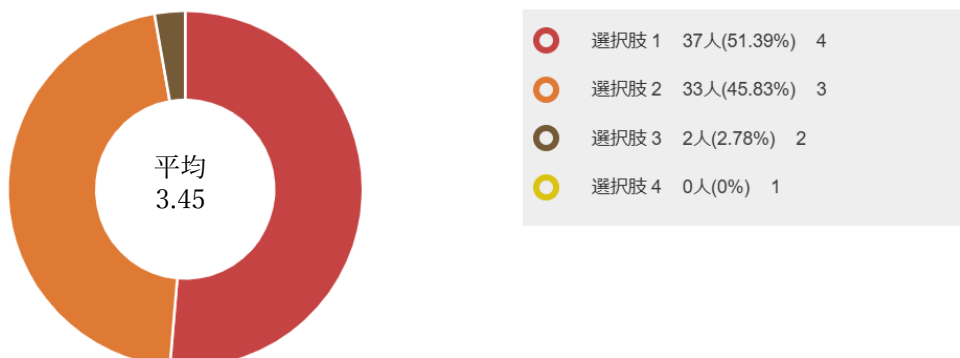
2月調査時の教員自己評価グラフ



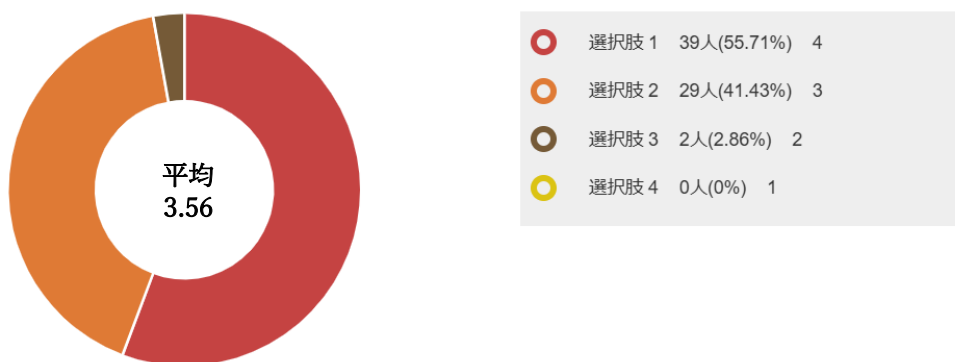
2-4. 自己の職務に責任を持ち、工夫・改善を意識して取り組んだか 【評価 A】

- 自分の仕事に責任を持ち、効率よく物事を進められるよう工夫して取り組むことができた。(多数)
- 去年もやっていたからという惰性ではなく、去年よりもいいものという目標を達成できた。
- 常に改善を考えて、授業プリントを作り直したり、生徒の理解につながるような日常問題だったり日々意識して取り組んだ。
- 今、いろいろなことが過渡期にあるので、一度決めたことを決めっぱなしにせず、より良くなるにはどうしたら良いか考えるようにしている。
- 授業やクラス運営に責任をもって取り組んだ。また、行事など生徒たちが楽しめるように工夫して行った。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素2に対する学校関係者の評価

- 情報管理や貴重品管理については大変慎重に取り扱ってくださっていると感じている。
- 先生方ご自身の業務で手一杯だというのは、それだけ一生懸命という証だと思う。
- 取組みを増やすことより、削減は出来ないか。コンサルなどに仕組み化を依頼してみてはいかがでしょうか。
- 先生方も最新の情報を取り入れ、勉強されていると感じる。
- 生徒の模範となる期日厳守を行ってほしい。
- 情報管理、貴重品管理は適切に行われている。
- 小中高大一貫した教育体制が望まれる。
- 職務への高い責任感と改善が伺える。
- 勤務状況や勤務態度については、概ね良好であると考えている。特に、教育職員間の同僚性については、ある程度のレベルまで構築できていると思われる。学年・教科・教職経験等を超えた同僚性の構築が、教育改革につながっていくため、継続して取り組んでいただきたい。

評定要素3 学校運営 【評価 B】

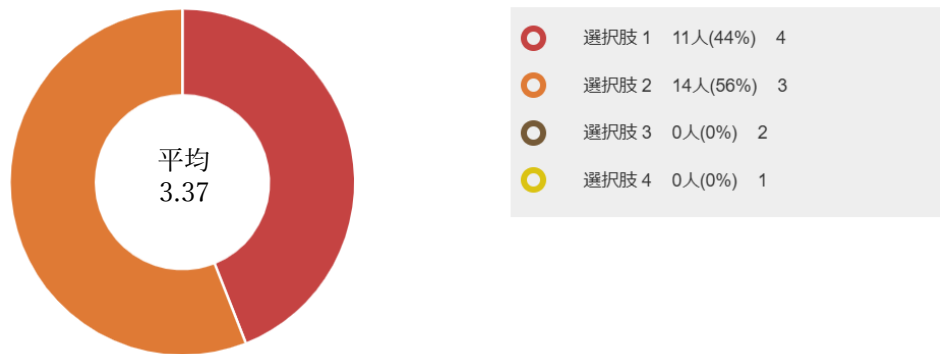
(分掌課長・学年主任・科コース主任・教科主任が回答)

3-1. 所属校の教育目的・教育目標、教育方針に沿った企画・運営をしたか 【評価 A】

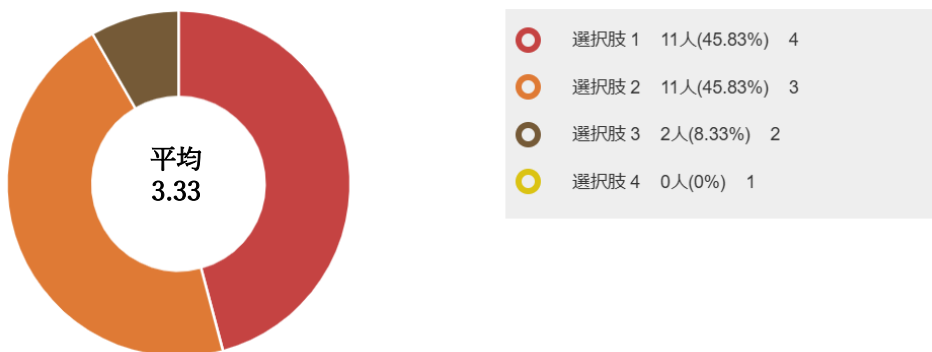
- 橘中高の教育目的・教育目標、教育方針に沿った企画・運営を行った。(多数)
- 性教育講座や体育祭など、グラウンドデザインと生徒の実態に合ったものを考えて行った。
- 今年度は生徒に話をする機会も増え、英数科では進路先を県外にも広げる生徒も増加した。次年度は講話やキャリア体験、表現指導などを計画的に行い、流れにのった指導の中からより多くの先生方と協働して指導にあたり視野を広げる働きかけにも取り組んでいきたい。
- 教育方針に沿って、生徒が自分自信の生活を楽しみ、将来豊かに暮らせるための授業を心掛けた。生徒からも、実際に家で親を頼らずに自分で行うようになったという声や、調理や裁縫が楽しめるようになったという声を多数聞く事ができた。

- 学力・内面を伸ばす教育を実現するために学年ごとの取り組みのデザインを1年かけて行っている。
- 基本的に目的・目標に則り活動してきたつもりですが、美術専攻として中高大連携（常葉大との連携）ができなかった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



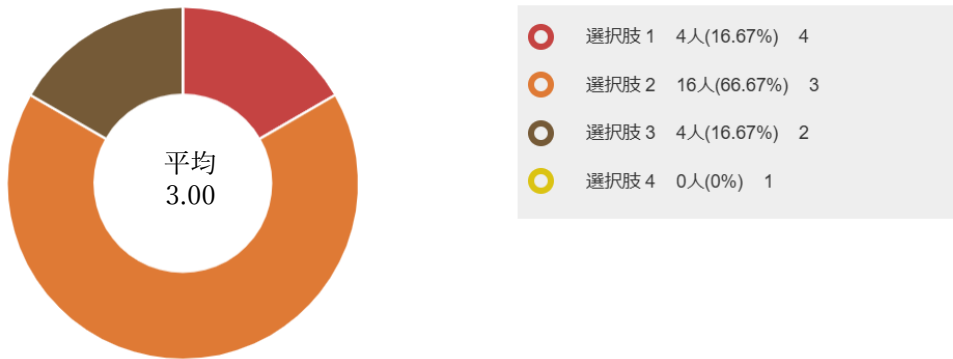
2月調査時の教員自己評価グラフ



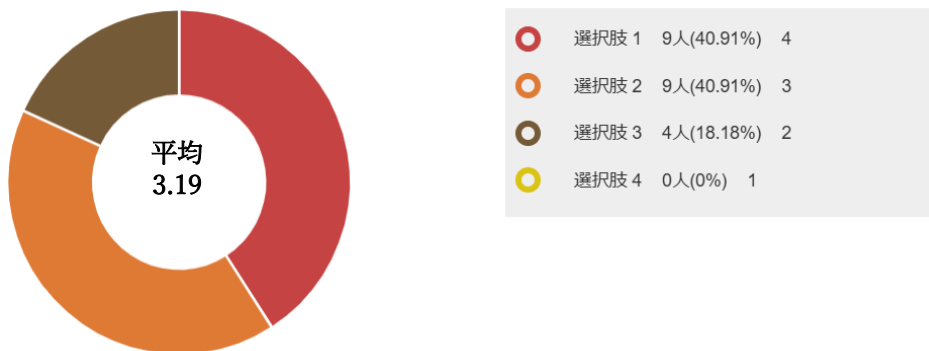
3-2. 各教育活動を振り返り、より教育効果を高めるために新しい企画や工夫・改善策を提示できたか 【評価 B】

- マンネリ化や昨年度と同じにならないよう、よりよくなるように心がけた。
- 生徒に考えさせる授業を意識し、生徒が自分事として考えられるような授業展開を意識した。
- 進路指導に注力した。特に共通テスト改革元年であったので、模擬試験や教科指導に力を入れたつもりである。
- 授業では生徒たちに視覚から訴えられるような工夫を行った。
- 教職員の志望理由等の研修も計画した。教員のスキルを伸ばすためや進路指導力を底上げするためにさらに研修もブラッシュアップさせていきたい。
- 上手くいかないこと、負担が大きくなってしまっていることに関して、積極的に改善案を提示してきた。
- 前年度の改善に注力したため、新しい企画立案にまでは手が届かなかった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



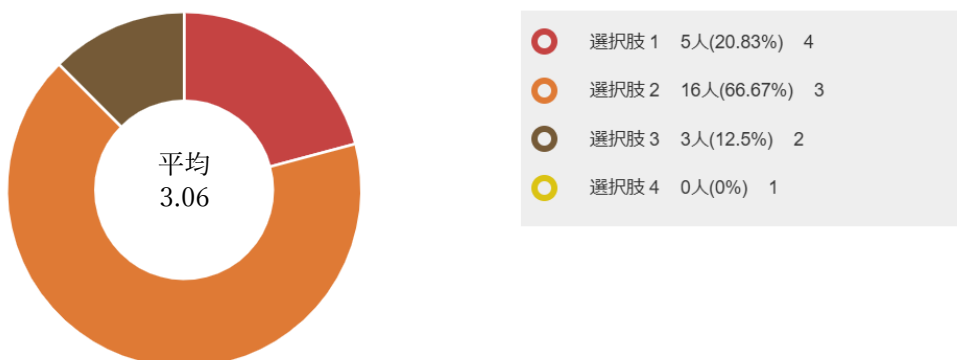
2月調査時の教員自己評価グラフ



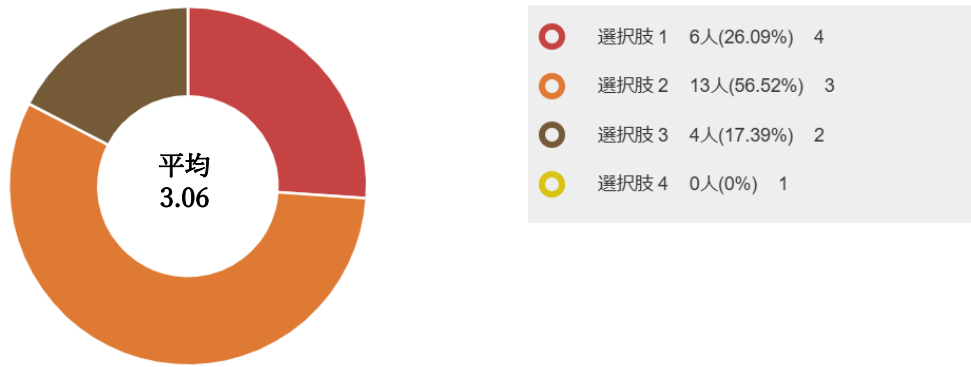
3-3. 各教員が行う職務全般を掌握し、リーダーシップを発揮したか 【評価 B】

- 学年全体を見渡し、情報共有を行い、仕事の偏りがでないように配慮したつもりである。
- 自身がすべてをこなすのではなく、各教員と協力して業務にあたるように心がけている。特に自身が一緒に関わる部分と任せる部分を意識して行った。
- リーダーシップの成果ではないが、学年の先生方が互いに助け合い、良い関係性を築いてくださったのが、良かった。
- 先生方の動きを観察し、コミュニケーションなどをとることを心掛けた。
- 職務全般を掌握するところまではまだまだできていないと言えないので、今後心掛けていきたい。

9月調査時の教員自己評価グラフ



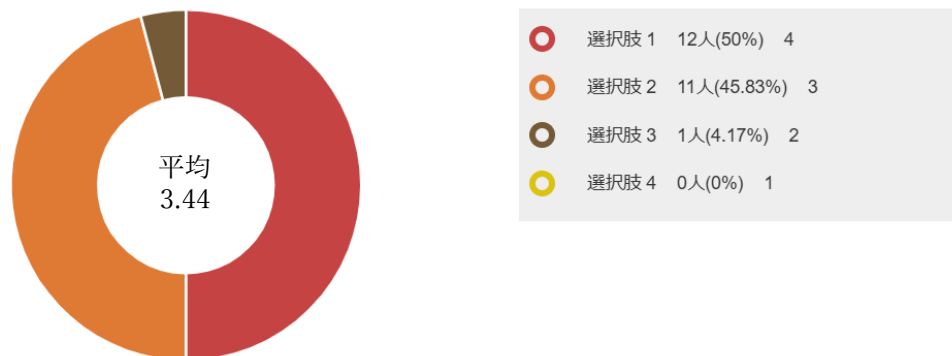
2月調査時の教員自己評価グラフ



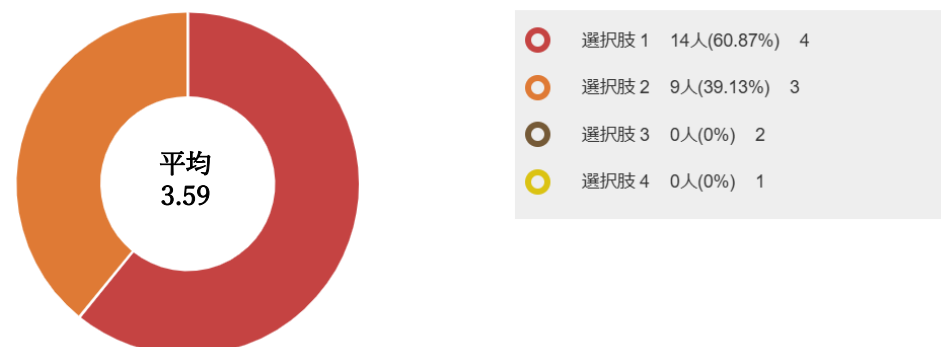
3-4. 会議等に積極的に参加できたか 【評価 A】

- 参加者である場合には、積極的に参加し、学年会議については、こまめに開催し、意見交換ができた。学年会議をクラス運営や進路指導のヒントになるような情報交換の場とした。
- こまめにコミュニケーションを取りながら新しい施策を考えてきた。新企画についても教員の共通認識を持てるように努めた。また、校内研修の企画でもあったため、研修委員同士の声掛けを密にするための会議の場も設けた。
- 検討の場、伝達の間、共有の場として活用することができました。
- 関係者にどのようにおろすかを考えながら参加はしたが、発言はあまりできなかった。
- 学年会議では、十分な準備をして会議に臨み、先生方にわかりやすく伝え、意見をできるだけ出してもらえるように努めている。その他の会議でも、自分の役割なども意識しつつ、積極的な参加を心掛けている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素3に対する学校関係者の評価

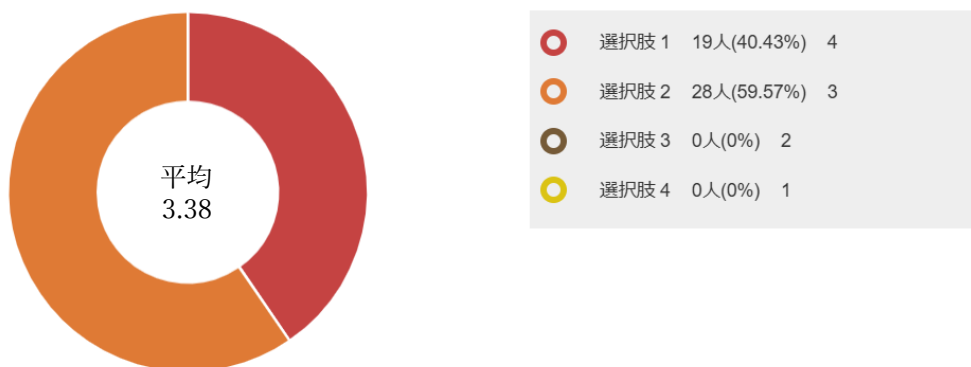
- 生徒たちが学校生活を楽しんでいるのを感じています。
- 学校側が思い切った取組みをしているので、生徒たちの視野も拓けていくのだと感じます。
- 系列校との連携が図れることは常葉学園そのものの魅力が向上すると思う。
- 前年度の改善や、それをベースとしたより良くなるような工夫は、十分に新しい企画立案だと思えますし、先生方の日頃の努力に感謝している。
- 学校全体で情報を共有し、コミュニケーションを頻繁に取られていると思えます。
- 目的に沿った学校運営が伺える。
- 教育効果を高めるため、工夫改善に積極的に取り組んでいただきたい。
- 教員が各々の場面でリーダーシップを発揮したい。
- 会議等への積極的な参加が伺える。
- 教育職員が一丸となって、学校運営にあたっていることが評価できる。特に、コミュニケーションを円滑にはかり、役割を明確にして取り組んでいる。
- 学校法人や校長の教育哲学に基づいた教育ビジョンのより一層の明確化・スリム化をはかることで、新たな改善策が見えてくるのではないかと考える。

評定要素 4 **学級指導** **【評価 A】** (学級担任が回答)

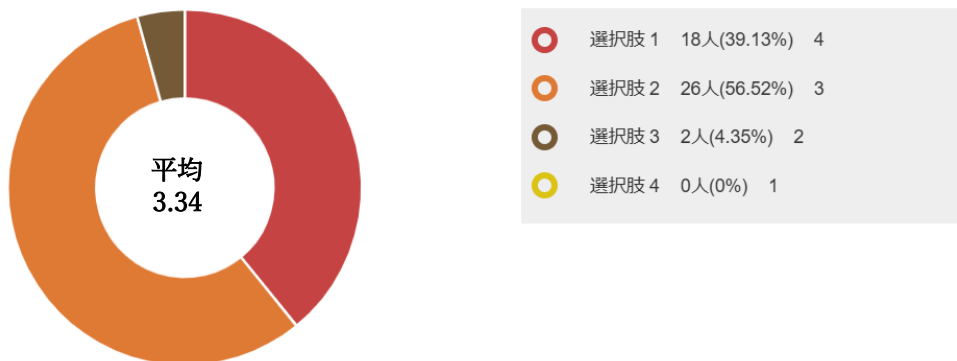
4-1. 学級の生徒をよく理解し、掌握しているか **【評価 A】**

- 朝の SHR で生徒の様子を確認し、なるべく観察やコミュニケーションを取ることを意識して教育活動にあたった。(多数)
- 家庭調書をよく読み、家族構成や母子家庭・父子家庭なども把握することを前提に日常とともに過ごすよう意識した。
- 生徒との関わりは多く持ちました。毎週必ず1回は生徒全員と関わりもち、簡単な会話等をすることを意識した。
- 「週の振り返り」に毎週コメント返すことで、なかなか分からない生徒の心の内を理解することができた。度々、クラスアンケートも実施した。
- 誰と誰が一緒にいるのか、休み時間や放課後の過ごし方などよく観察するように意識した。また、自分の教科だけでなく他の教科での授業態度などを授業担当の先生と確認した。
- 年に3～4回(希望者のみ)の面談を行い、生徒の進路希望や相談ごとに対応するよう努めた。
- 休みがちな生徒について、可能な限り家庭と連絡を取り合ったが、転出に至った。より良い手立てはなかったか、転出後よく考えた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



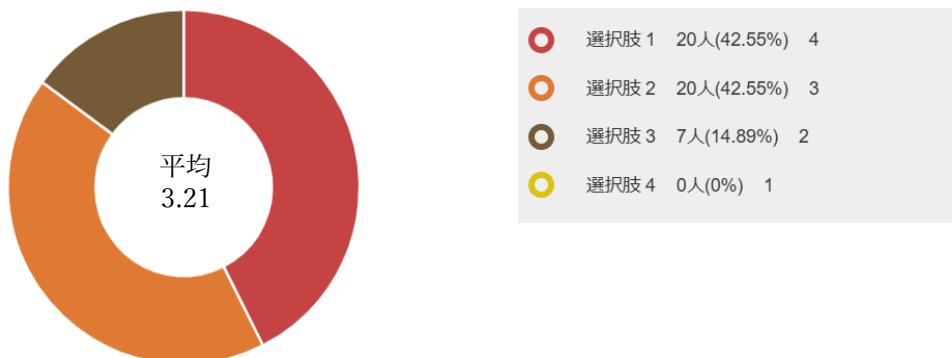
2月調査時の教員自己評価グラフ



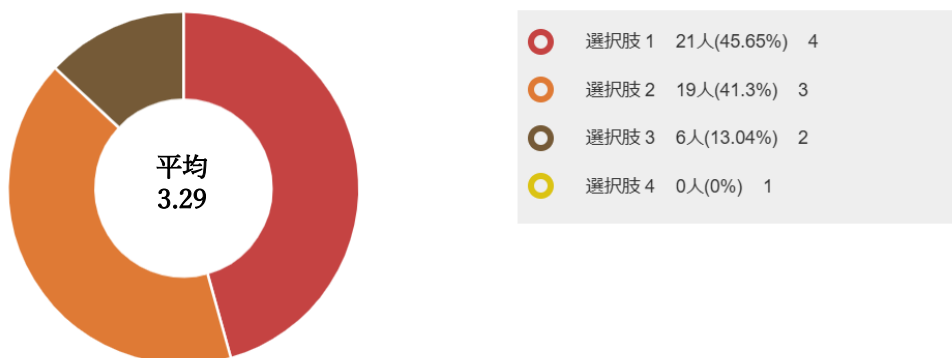
4-2. 教室内の整理・整頓（清掃・私物管理）の指導を徹底できたか 【評価 B+】

- 教室内の整理整頓には特に力を入れ、クラスの生徒が居心地の良い教室になるようクラス全体で意識することができた。
- 整理整頓はしっかりと個別に声をかけながら私物の管理をさせることができたが、清掃に対する取り組みができない生徒が多いので苦労した。
- 部活動に早く行きたい生徒が数人いて、その生徒は手薄になっているときがあった。清掃時間は確実に行うようにしたいが、部活動の顧問の先生からも共有してほしい。
- 担任自らが整理整頓する姿をあえて生徒たちに日々見せた。
- ロッカーの上や机の上に様々なものが置いてあったり、私物の散乱してしまったりする生徒もいる中で、根気強く声掛けをすることができた。清掃に対する取り組みの改善のために日ごろから話をする中で意義の理解が促されるように取り組んだ。
- 自ら実践しながら指導したが、なかなかうまくいかなかった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

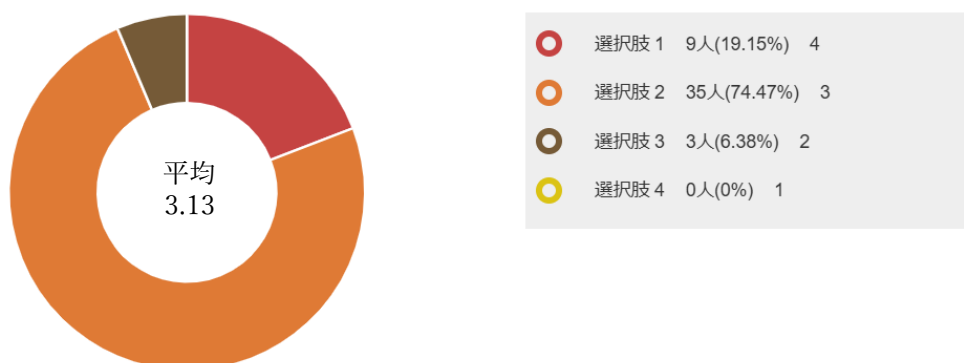


4-3. 学習意欲を高める指導を十分できたか 【評価 A】

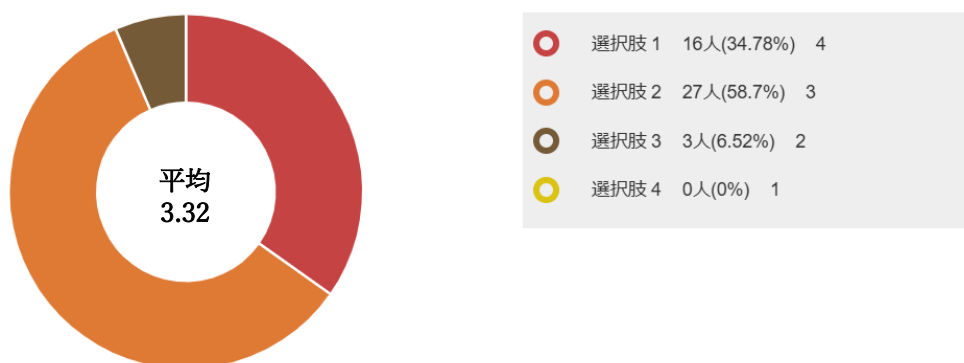
- 授業内容や進路指導にあたっての提示内容について、事例を挙げながら具体的にイメージをできるように指導をしようと心がけたが、十分に意欲を高められてはいないと感じる。
- テスト前にはテスト範囲を教室に掲示したり、検定試験の前には声掛けを行うなど、意欲が高まるよう工夫した。振り返りのやりとりがあまりできなかったため、振り返りのコメントにも力を入れて学習意欲を高めていきたい。

- 成績がどう今後につながるのか、定期テスト前後でしっかりと話す時間を作った。また、成績を返却するときや三者面談でも確認ができた。しかし、言葉では伝えたがそれを実行できる人とできない人との差が大きく感じた。
- クラス独自に毎週末スピーチを行い、受験を意識させる活動に取り組んだ。発表者には原稿を書かせ、要約や意見の書き方の指導をした。聞き手にも毎回感想を書かせ、聞く姿勢づくりを意識させた。
- 個々に課題を与えてきました。将来に繋がるように、入試の話も継続的にしています。ただ抑えつけるのではなく、自らが行動するように行動してきたので、自主的に教科担当に課題をもらう生徒や、単語テストを求める生徒が現れた。
- 受験中はもちろんであるが、進路決定後も定期テストに真剣に向かう姿があり、今まで伝えてきたことが身になりつつあり嬉しかった。
- 勉強が嫌・つらい・能力的に厳しいと見られる生徒の意欲を向上させることが困難でした。勉強面以外で伸びている点や改善点が見られることを個人的に伝えることが多かった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

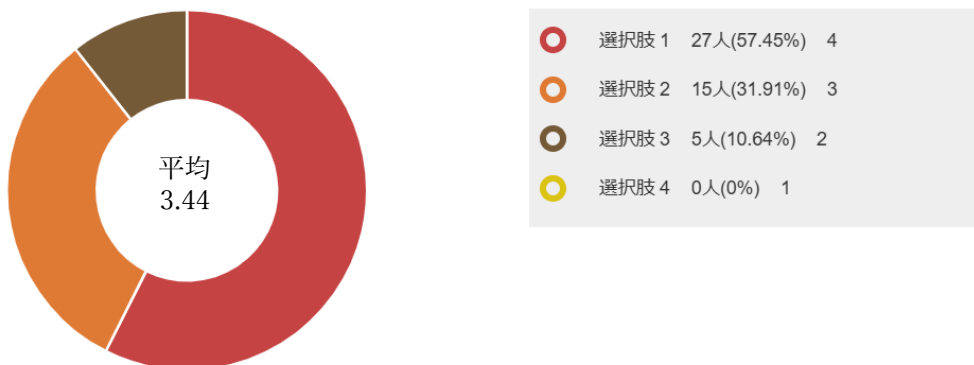


4-4. 諸行事に一生懸命取り組ませることができたか 【評価 A】

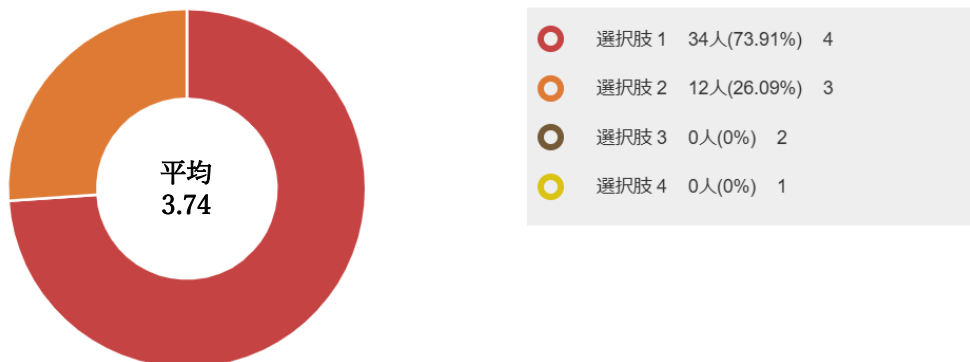
- 生徒自身が楽しんで主体的に取り組む姿勢を見せてくれた。(多数)
- 行事の目的や意味を考えさせ、一生に一度しかない行事を全力で楽しむよう声掛けを行った。
- 行事に取り組むことをゴールとするのではなく、なぜその行事に取り組むのか（取り組んだほうがよいのか）を趣意説明することを SHR の時間などで心がけた。

- 尚志祭、球技大会、体育祭、修学旅行などに対して、当日を意識してそれぞれの役割に応じて意識させた。中には自分の役割を全うできなかった生徒もいたので、より良い方法を考えたい。
- 行事ごとにクラスで話し合い、行事の目的やゴールを明確に定め、達成に向けて全力で取り組ませることができた。また、私自身も行事を楽しむ姿勢を忘れず、生徒とともに全力を尽くした。
- 文化祭や体育祭でクラスが一致団結できるように心がけた。また、各行事振り返りをきちんと行わせ、それを学級通信を通して、生徒・保護者に共有した。
- 行事では悔いが残らないように全力で取り組むことと行事を全力で楽しむことを生徒たちに話をして、良い結果がでなくても前向きな声掛けをした。自然とクラス内でも一致団結して意欲的に取り組んでいた。結果として他クラスに負けてしまっても、自分たちの中の成長を見つけて喜ぶことができていた。
- 事前に修学旅行の平和学習にしっかり取り組ませることで、平和資料館等で真剣に時間をかけて学ぶ様子が見られた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

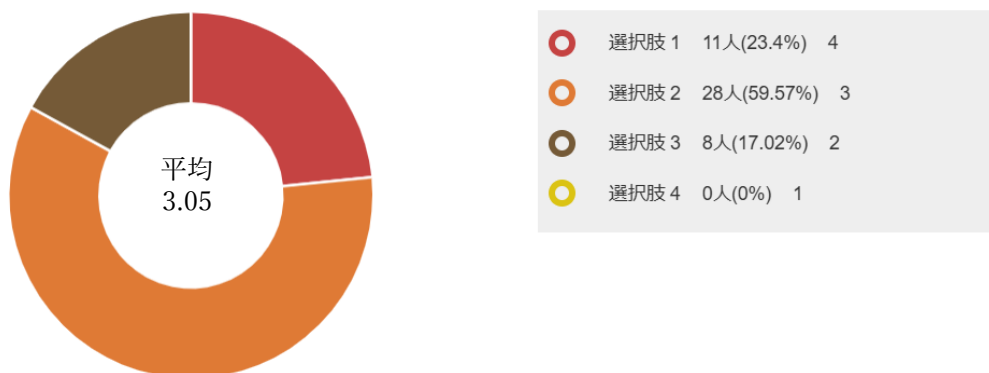


4-5. 校則・マナーを守らせる指導を徹底できたか 【評価 B】

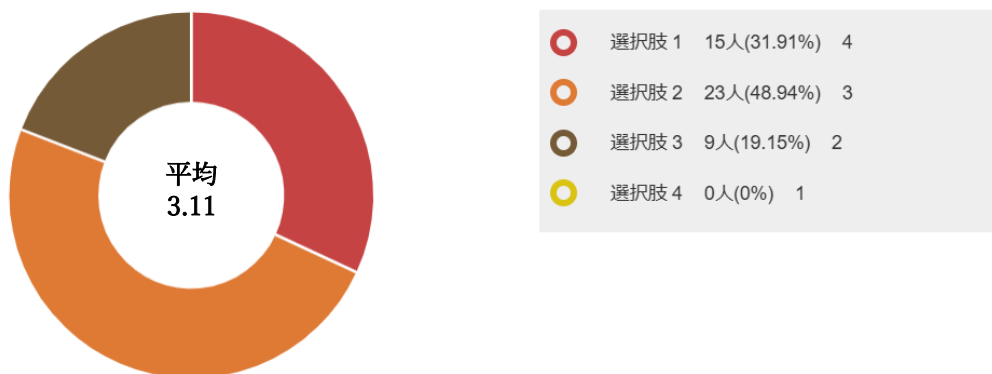
- なぜルールが必要かを理解できるように伝えられた。(多数)
- 指導を行ったが、徹底ができなかった。(多数)
- 校則・マナー・モラルに関しては定期的に話をしているが、1学期当初に比べれば良くなったと感じている。しかし、まだまだ改善の余地はたくさんあるので今後も継続的にしていきたい。

- 校則を破ることもバレなければよい、という風潮が少し出てしまった。
- 指導を受けて素直に直すことのできる姿勢を作れるように働きかけた。また、違反する生徒には指導だけでなく、不安や不満を聞きとるように行い、価値観の押しつけにならないように意識した。
- クラスでは風紀やマナーの在り方について HR で話し、意識付けをさせた。普段の生活でも必ず挨拶の前は身なりを整えさせて授業に向かう姿勢をつくるように心掛けた。しかし、指導をしてもその場だけでやり過ごす生徒もおり、教員間の認識もばらつきがある。そのため、定期的に学校全体で共通認識を確認したり、意識付けをさせたりする機会が必要だとも感じた。
- 粘り強く日々の声掛けが大切であることをあらためて確認できた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

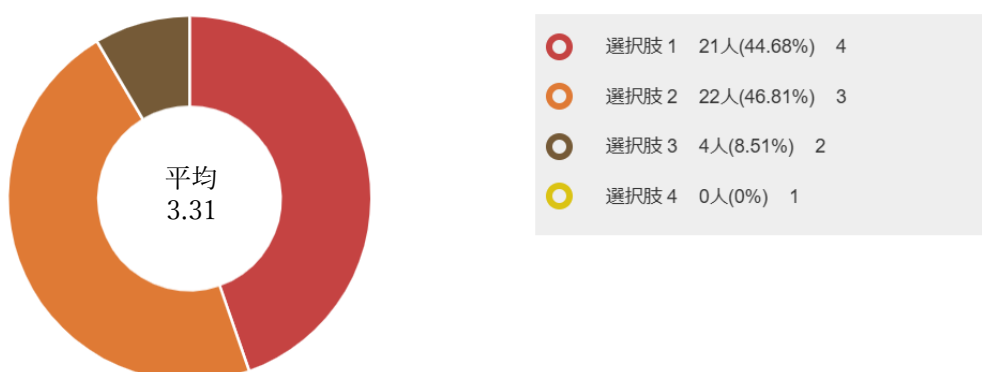


4-6. 進路に関する情報・知識を与え、意識を高めることができたか 【評価 A】

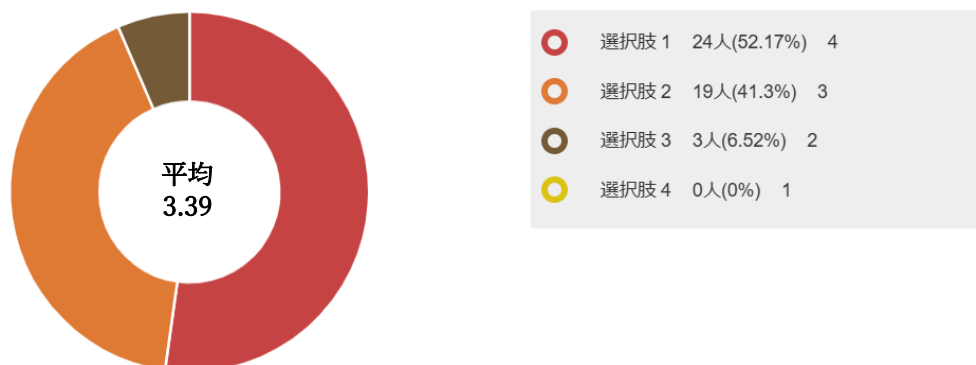
- 進路に関する情報を積極的に与えることができた。(多数)
- 指導要領改訂で入試変更の初年度であるため、特に情報収集し、生徒に正しい情報を伝えた。隙間時間を見つけ、進路に関するアドバイスは行った。
- 附属校入試に関してのアナウンスは徹底していると思う。他大学や専門、就職に関してのアドバイスも行ったので把握できている生徒は前向きに活動ができている。
- 中3、高校行ってからのコースの話を保護者会で話すなど、また面談でも情報を提供できた。私自身、まだ知識が少ない部分もあると感じている。

- 中学では、進路に関する指導に触れることが少なかったが、日々の生活の中で社会的なニュースや様々な職業について触れることや、自身の経験を踏まえた受験に関する体験談を話すなど、将来について考えるきっかけを与えることに注力した。
- それぞれの進路や試験日程をクラス全体や同じ方向性を向く仲間と共有させた。お互いに声を掛け合いやすくし、自分たちで行動を起こせるような環境を作るようにした。
- 積極的なオープンキャンパスやボランティアへの参加、資格検定取得等来年度のことを見越した呼びかけや指導を頻繁に行った。
- 週に2～3回は帰りのSHRで進路の話、先輩たちの動きを伝えた。それにより、夏休み以降は進路の相談を受けることが多くなってきた。
- 生徒の内発的動機付けになるよう掲示物などを工夫した。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

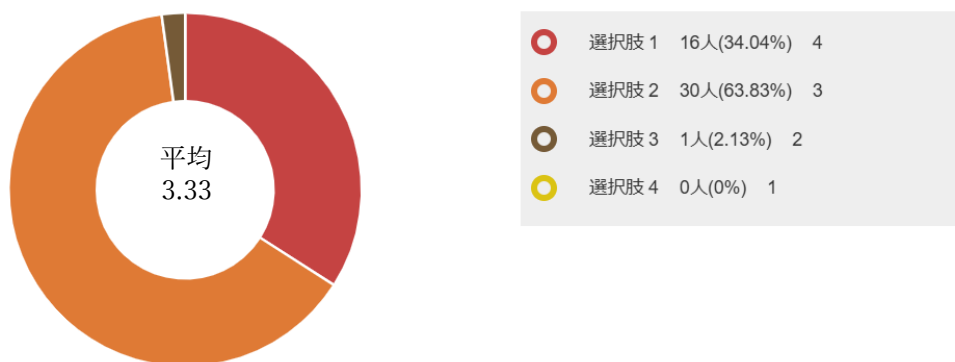


4-7. 保護者との信頼関係を築けたか 【評価 A】

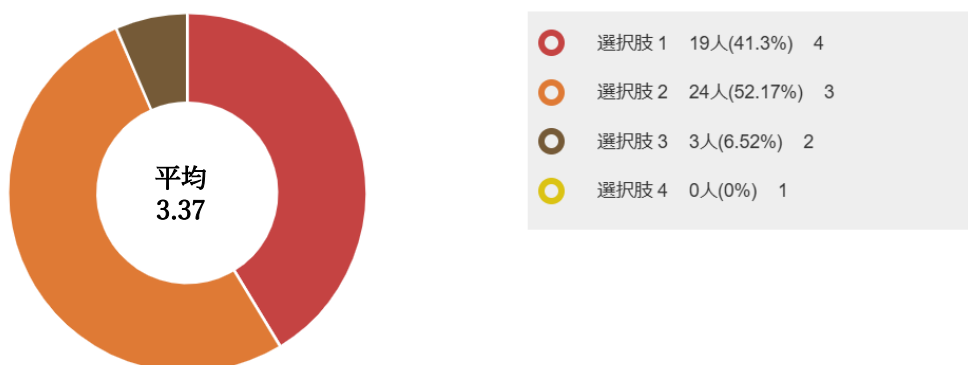
- 何かあったらすぐに電話連絡をした。(多数)
- 保護者との密な連絡や面談は欠かさなかった。Classiでの情報発信を意識できた。(多数)
- 常に「保護者も言いたいことがあるが期待を込めて我慢してくれている」という自覚を持ち、業務に取り組んだ。
- 三者面談や電話での対応は丁寧に行うことができました。懇談会でも多くの保護者と関わることができた。
- 生徒の善行や小さな行動の変化等を電話で伝え、学校と家庭で生徒の情報共有を行うことができた。必要な際には保護者と面談を実施するなど、信頼関係を構築することに努めた。

- 保護者の方と話をするとき、まずは保護者の方の思いを聞くことを大切にしました。その上で子供の良いところや頑張っている所の話をするように心掛けた。相談されたことは、学年部に共有することの了承をいただき、無責任な返事はしないように心掛けた。
- 何かあればすぐに連絡するようにしていました。そのため三者面談でもいろんなことを話してくれる家庭が多かった。
- 進路のことや、その他生徒間のトラブル、保護者への各種対応において、上手くいかなかったことが多く、少し反感を買ってしまったような時もある。
- 叱咤激励のつもりで生徒に伝えたことが、上手く意図が保護者に伝わらないことがあった。気をつけているつもりだが、もっと慎重にならねばと思った。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素 4 に対する学校関係者の評価

- 生徒理解と掌握については、非常に心を砕いてくださっていると感じる。
- 清掃に対する取り組みが出来ているか出来ていないか、家庭での教育や考え方の違いによるものが大きい。
- 清掃は単なる掃除や片付けではなく、全ての物に対する感謝やおもてなしの心、そのほかに次への準備などにつながる。
- 全て心持のあらわれです、何か迷いや悩み、主張したい事があるのかもしれない。
- 行事への取り組みについては生徒・先生・保護者ともに一生懸命だったと思う。
- 多くの保護者の目が学校の方を向いていると感じる。
- 心に問題を抱えた生徒のほとんどは、親が心に問題を抱えている。『逆もまた真なり』であれば、生徒が明朗闊達になれば親もそうなると思う。

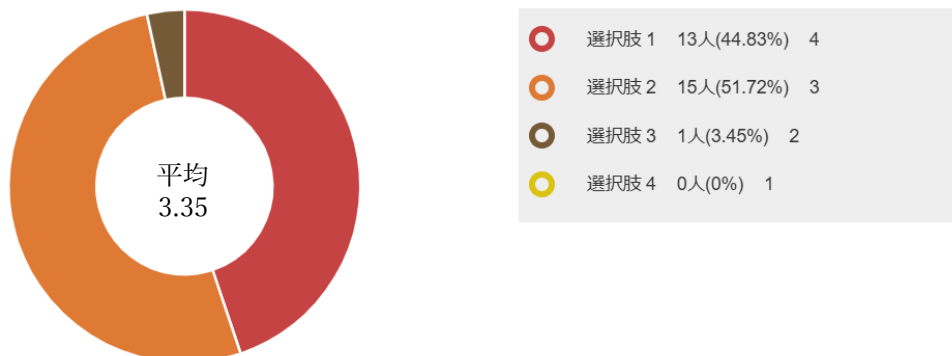
- 授業のマナー化や、溶け込めない子への対応、行事の参加、生徒の家庭との関りなど、膨大な仕事量をこなされていて、頭が下がる。
- 学級の生徒の掌握が伺える。
- 何事にも積極的に参加する生徒への指導が望まれる。
- 学習意欲を高めるための指導が積極的に行われている。
- 諸行事への取り組み指導が積極的に行われている。
- 学校生活の基本である校則・マナー教育を徹底させたい。
- 進路に対する高い指導が伺える。
- 保護者との信頼関係を築こうとする努力が伺える。
- 学級指導に関しては、生徒や保護者の声をよく聴き、概ね良好なコミュニケーションが行われていると考えられる。コミュニケーションは、学習指導の根本であると思われるため、今後も注力していただきたい。
- 「3.学習意欲を高める指導」に関しては、各教科は各文化内容が中心であることを再認識し、「文化的な価値」の教授を中心として学びをデザインすることで、学習意欲の向上につながるのではないかと考える。また、学びのデザインの中には、教師と生徒、生徒同士のかかわり合い（聴き合い等）を必ず設定することも重要であると考ええる。
- 「5.校則・マナー指導」に関しては、生徒自身が規則の「意味」を理解し、自分たち自身の快適な学校生活のためにはどのような規則が必要であるかという「生成思考」になるような教育の充実を期待したい。

※本校では、副担任には課長や主任が多い

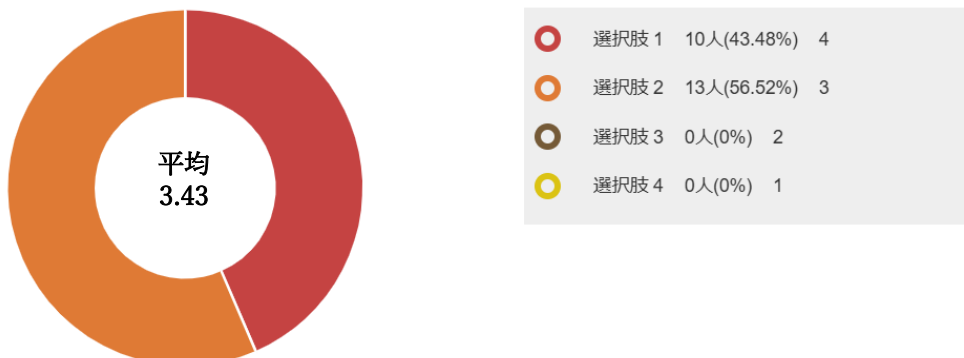
5-1. 学年業務に積極的に取り組んだか 【評価 A】

- 学年が企画する行事等にできる限りの協力はしてきた。(多数)
- 行事での役割を明確にすることと、期限を明確にすることで各担当者が業務に当たりやすい環境を作ることができた。
- 学年業務に多くの時間を費やした。進路選択のための指導、生徒や先生方の悩みの相談にのるなど積極的に取り組んだ。
- 学年の教員間で情報共有を徹底し、学年としての目標や育てたい生徒像を明確にすることで、チームとして中学2年生を育てることができた。その際に、業務の偏りがなく、互いに声を掛け合いながら学年主任のもと、さまざまな業務にとりくむことができた。
- 附属高校入試に関わる業務が多く、毎日情報を発信しながらミスの無い出願指導に努めた。また、附属高校入試の取りまとめや総合型・推薦指導があったため、その他の業務は他の副担任の先生方にいく部分もあった。
- 会議をはじめ、意見や助言をし、業務がスムーズに進むように努めた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



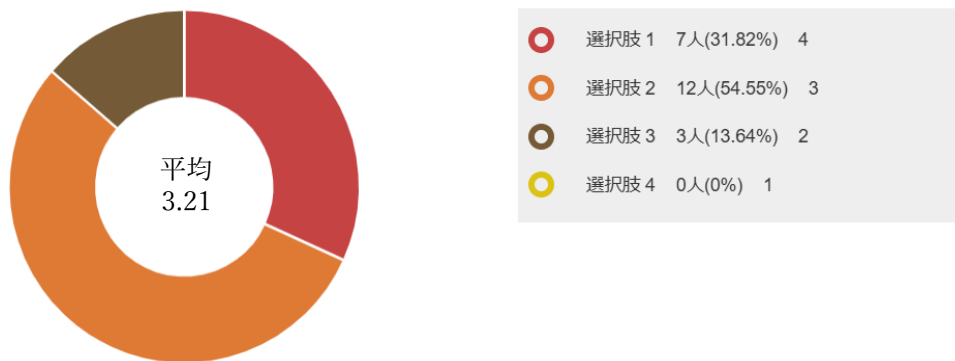
5-2. 学級経営に関する担任業務を十分補佐できたか 【評価 B+】

- 副担任として担任を支えられる面について、積極的に行うように努めた。(多数)
- 英数科ということもあり、自分の中で難しさを感じた。活動を理解していないと副担でク

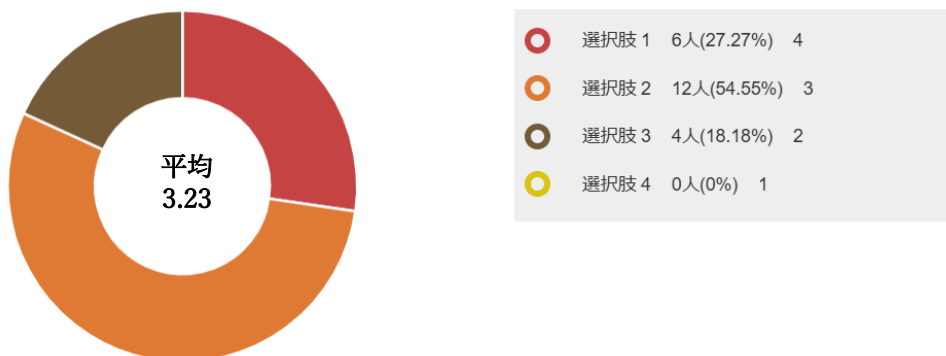
ラスに行っても自分なりの言葉が出てこないと感じたため十分なかかわりができなかった。

- 学年のルールや目標をベースに指導することを意識した。行事の際は、生徒と積極的にコミュニケーションをとり、行事がより良いものになるよう、努めた。
- 変形労働制の関係で、毎週月曜日に担任が不在になるところで、補佐を一年間続けた。
- 担任ばかりが負担を負わないように留意した。担任業務の補佐にも回った。
- 今年は3クラスの副担任を担当した。担任としてクラスにはいる際には、責任をもって提出物や伝達事項、体調不良者の対応などに取り組み、クラス運営した。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

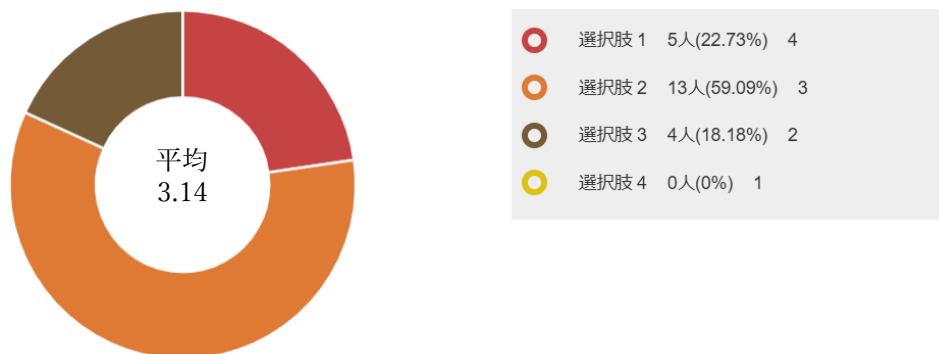


5-3. 担当クラスの生徒理解に十分努めたか 【評価 B】

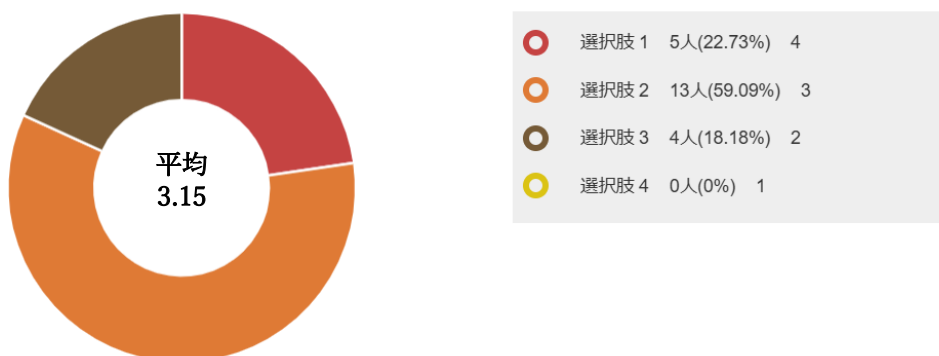
- 学年部として生徒一人一人と積極的にコミュニケーションをとることができ、生徒理解に努めた。(多数)
- 週の振り返りをチェックするなど、具体的に理解する場を設けて、概ね理解に努められたと思う。
- S H R くらいだったので、十分な理解までは難しかったが、SHR での生徒の様子などについて、詳しく学級担任に報告をした。
- できるだけ多くの生徒と話をすることを心がけ、特に注意をされた生徒への接し方に気を付けた。
- 授業を持っていないので、総合・LHR や昼食指導で積極的に生徒と関わり、理解に努めた。

- 生徒の意見を聞き取る、拾うことを昨年度以上に意識した。とても効果を実感している。多様な生徒の動向を理解し対応することが出来た。
- あまり介入する機会が少なく、理解が乏しい状況になっていた。自ら情報を得、関わっていききたい。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素5に対する学校関係者の評価

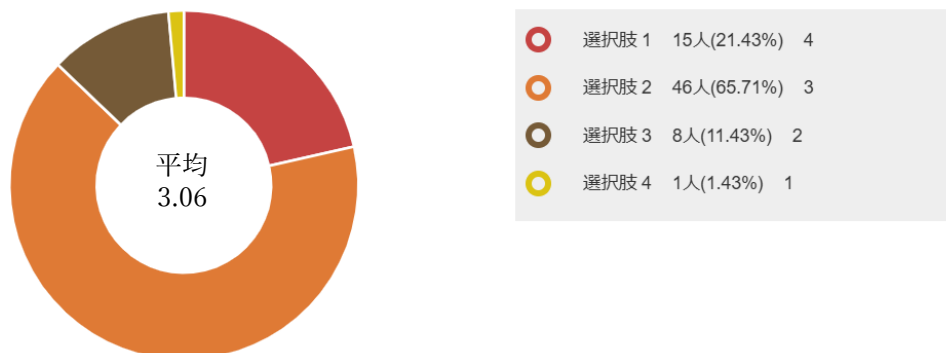
- 副担任は学級担任と同様、生徒理解と掌握に努めていると感じる。
- 学年業務への積極的取り組みがされている。副担任の補佐は重要でありその様子が見える。
- 担任の荷を軽くするためにも、別の目で見るという意味でも、副担任は必要不可欠だと思う。
- 生徒理解に努めながら、副担任としての役割を良好に務めることができていると感じる。

評定要素6 学習指導 【評価 B+】

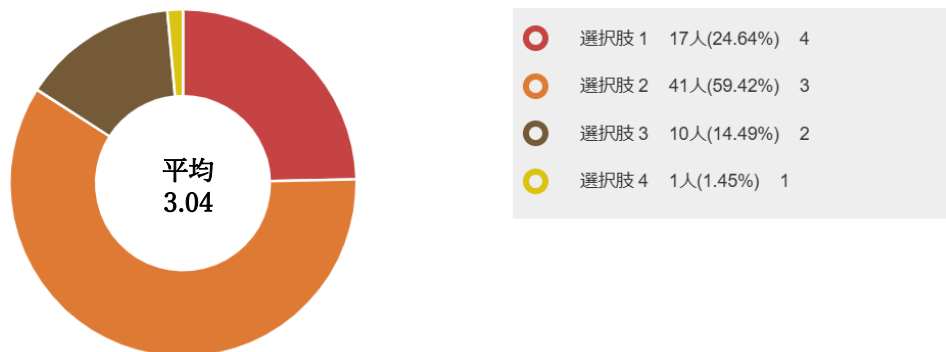
6-1. 専門的な知識・技能を十分持っているか 【評価 B】

- 共通テストや模試の問題に取り組んでいるが自信を持って十分とは言い切れない。(多数)
- 教材研究をすることで日々精進している。(多数)
- 管理栄養士の資格を生かして、生徒に食の大切さについて興味を持ってもらえるよう、専門的な知識を生活に落とし込んで伝えるようにした。
- 共通テストの問題を解いてみて、ミスなども多かったため、確かな知識を付け直さねばならないと感じた。また、新しいニュースなどを取り入れて知識を更新していきたい。
- 昨年度に比べると教材研究に割ける時間は少なかったが、動画等を見て、授業に役立った。
- 授業においては、日ごろからの教材研究を怠らず、より生徒が深い部分まで学べるよう努めた。模試や受験のための教科指導もできるようにこれからも取り組んでいきたい。
- 総合学習の充実のためには自身の知識や外部からの学びも必要となると考えるため時間を費やしていきたい。その知見が広がれば教科との横断学習の充実にもつながると考える。
- いま求められていることにすんなりと対応できないので、それを学びたいと常々思っている。
- 授業ではまだまだ勉強が必要な場面が多いと感じる。特に生徒が授業に主体的に取り組めるようなICTの活用が行えるように知識を身に付けたい。

9月調査時の教員自己評価グラフ



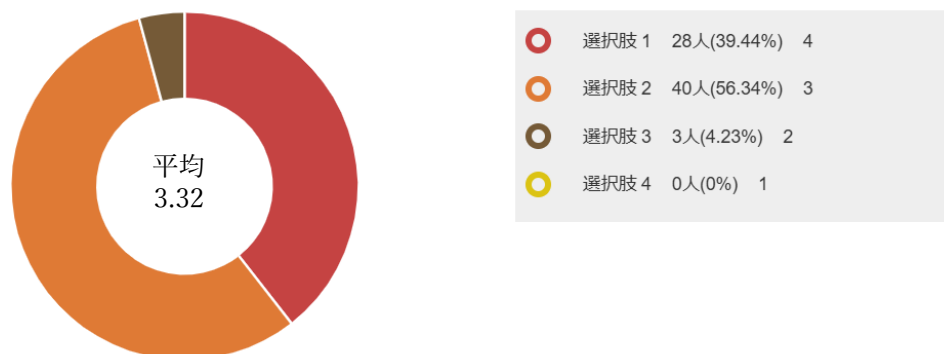
2月調査時の教員自己評価グラフ



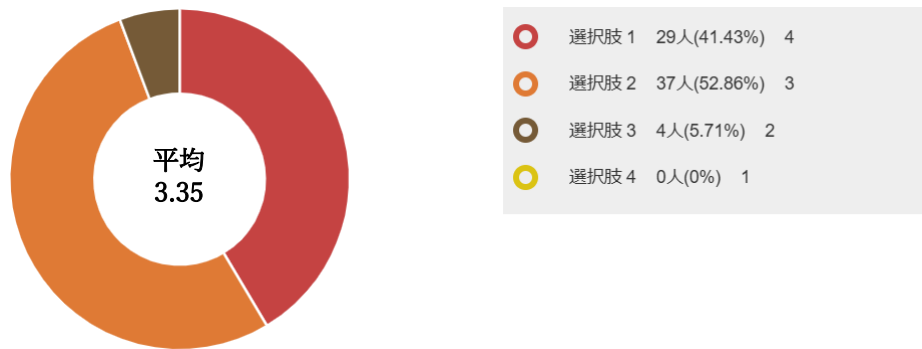
6-2. 解る授業、質の高い授業を行うために授業力向上に努めたか 【評価 A】

- 日ごろからの教材研究に加え、分かりやすい具体例の提示、生徒への発問を積極的に行うなど、生徒を積極的に巻き込んだ授業になるよう取り組んだ。(多数)
- 授業については常にこれでいいか考えるようにし、前年踏襲の授業にならないように改善を繰り返している。
- 試行錯誤しながら、指導方法を見直しながら進めてきた。生徒による授業アンケートも参考にして、今後も見直していきたい。
- 授業中の様子や小テスト、予習復習の取り組み、課題の提出状況などを注意深く確認して、生徒の躓きに気付くことができるように心掛けている。年間指導計画も意識しつつ、現状に合わせた授業展開を考えて指導している。
- 講義式の授業から少しずつ脱却し、グループワークなども取り入れながら授業を進められた。特に道徳は初めてだったこともあり、試行錯誤しながら取り組むことができた。
- 生徒が考える時間を必ず確保するように発問に対して短くても1分間の考える時間を設け、意見に自信を持って発表できるように近くの人との意見共有の時間を作るようにしている。
- 体育が苦手な生徒も授業を楽しめるような工夫を行った。個別に目標を分けることや、話し合いの場を設けて、スポーツを考える時間を作ることは大切だと感じた。
- 授業を終えた後、自分が計画した内容がどれだけ実行できたか、また生徒の反応や理解度はどうだったかを振り返るようにした。授業中に生徒が発言しづらそうにしている場面や理解に時間がかかっている部分に気がついた時は次回の授業でその改善をできるようにした。
- ただ教えるのではなく、動画で空間ベクトルや実際の動きをみせた。しかし、テストの関係で授業を進めなければいけなくて、日常問題をあまり実施できず教科書を進めていくという時間も多くなってしまった。
- 授業の展開方法や内容の精選などを意識して取り組んできたが、生徒の意識や意欲を高めることは困難であった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



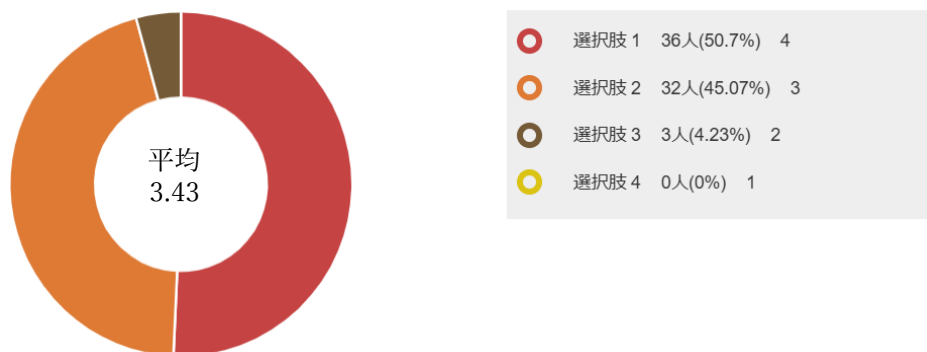
2月調査時の教員自己評価グラフ



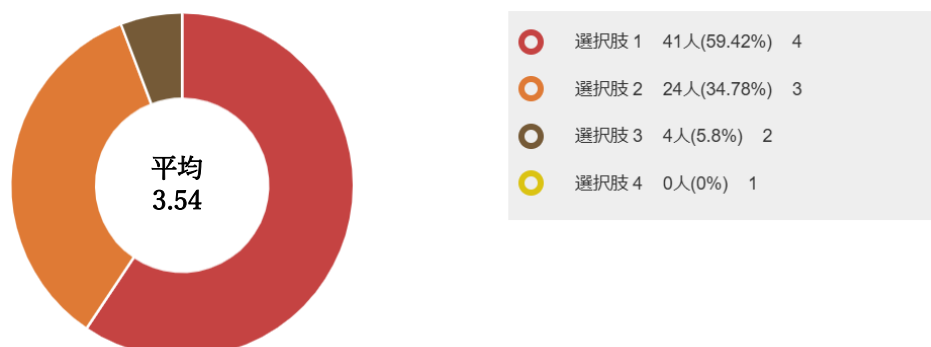
6-3. 小テストや課題を課すことなどで学習内容の定着を図ったか 【評価 A】

- 学力定着のために、各単元の基礎を測る小テストを行い復習および定期試験対策を行った。(多数)
- 課題の仕上がりについて、その後のために修正点を1人1人丁寧に指導した。
- 小テストは每学期2~3回ほど行い、定期的に生徒の理解度を確認し、学習内容の定着に取り組んだ。
- 基礎基本の定着を図る目的で、授業の小テスト(確認テスト)を定期的に行っている。課題に関しては、内容や量、タイミングが適切であるかどうかを意識して課している。
- 長期休暇中の課題を冬も増やしたことで、夏よりレポートの精度が上がり、取り上げる記事の質も上がってフィードバックの効果があつた。
- 小テスト計画や課題提出日を明示して計画的な実施を促し、学力の定着につながるよう努めた。
- 課題や小テストは適切に課すことができたと思う。Webテストも導入し、採点の省力化にも取り組んだ。

9月調査時の教員自己評価グラフ



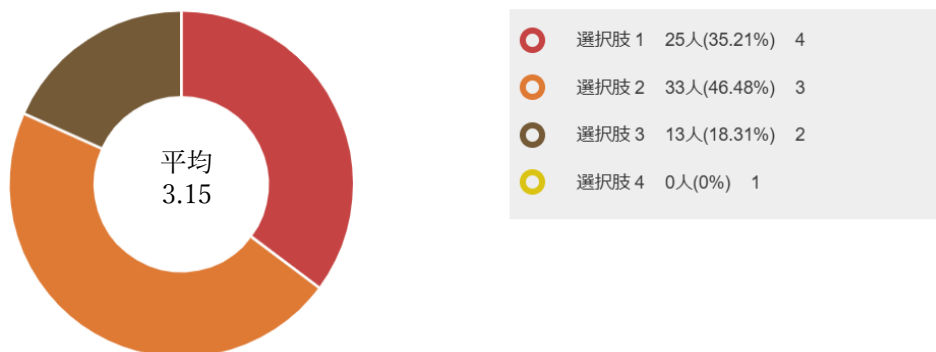
2月調査時の教員自己評価グラフ



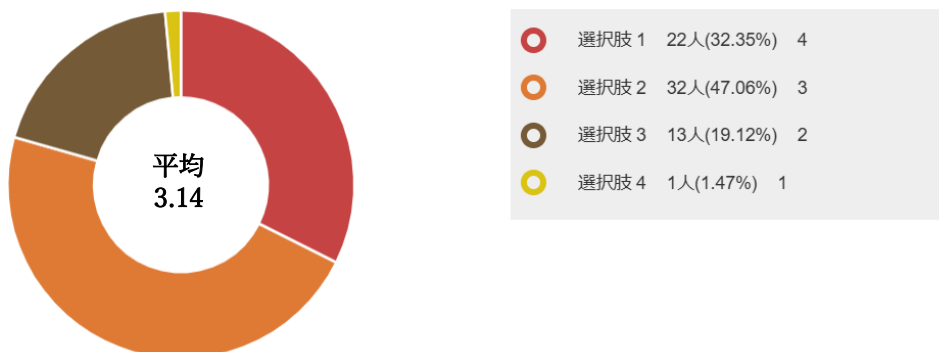
6-4. 教材研究、教科研修に積極的に取り組んだか 【評価 B】

- 学習指導要領改定に伴う指導内容の変化に適応できるよう、学び直しと授業展開の方法の工夫に取り組んだ。(多数)
- 授業や補習等に向けた教材研究は確実にを行っている。新しい指導法や授業展開、評価方法などについては、より良いものを目指すために、さらに研修や議論が必要だと感じている。
- オンライン研修に参加し、新たな知識を吸収できるようにした。公立の先生方が実施している研修会に来年度はもっと参加し、教科の指導法や教材研究を更に深めていきたい。
- 毎年同じ内容を教えるにしても見直しをしたり、関連書籍を読んだり、大学入学共通テストに対応した問題を解くなど、知識の更新を図っている。
- 単元内容に関連する生徒たちが興味を持ちそうなエピソードを付け加えて話したり、難しいと思う部分は詳しく話ができるように準備をした。特に古典作品は背景が分からないと理解が難しいものも多いため、積極的に情報を集めるようにした。
- ICTをどのような場面で取り入れられるかを考えていなかったため、これから教材研究をする際は、意識していきたい。
- 日ごろからの教材研究のほかに、教科会が企画した社会科見学にも参加し、自身の知識を深めることにも取り組んだ。
- 各種研究、研修にはあまり積極的ではなかった。次年度はもっと時間をかけて準備なり参加なりしたいと感じた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



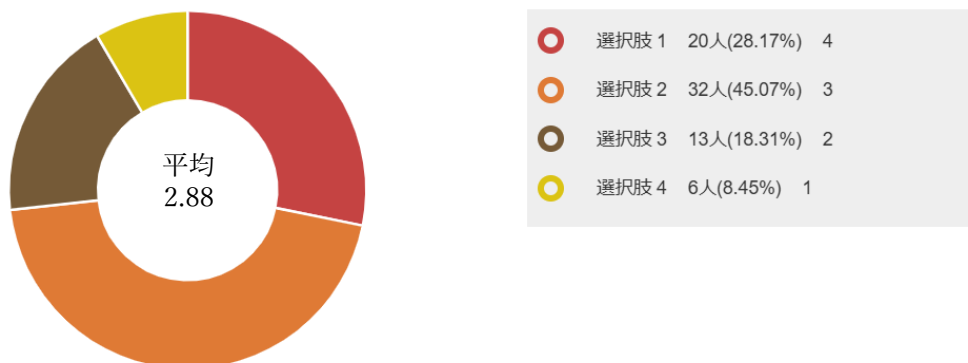
2月調査時の教員自己評価グラフ



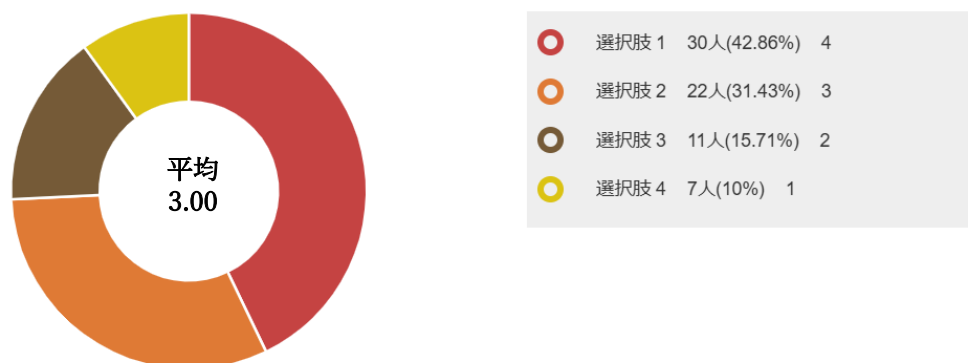
6-5. 補習などの課外指導を積極的に行ったか 【評価 B】

- 夏期補習ではスタディーサポート(ベネッセが提供する基礎的な学習の到達度を測る試験)を考え、基礎・応用のバランスを考えた授業を行った。
- 中学3年生の高校入試に向けた補習を行った。生徒のレベルに応じた教材を用意し、文章の読み方や問題の解き方を丁寧に解説するようにした。
- 部活動との兼ね合いもあり決まった補習はないが、生徒の質問にはいつでもすぐに答えるように心がけている。(多数)
- 進路課で計画されたものに加えて、英検指導や面接指導など、放課後を利用して個別指導をできる限り行った。
- 欠席の続いた生徒には授業時に短い時間でも個別で説明を加えるなどフォローをした。
- 中学3年生の高校入試に向けた補習を行った。生徒のレベルに応じた教材を用意し、文章の読み方や問題の解き方を丁寧に解説するようにした。
- 音楽大学受験希望者に平日毎朝行なっている。
- 裁縫の進度が遅い生徒を昼休みに集めて、補習を行った。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素6に対する学校関係者の評価

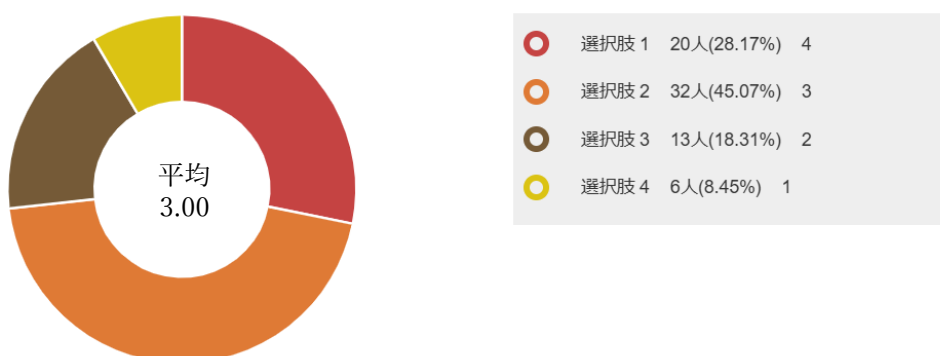
- 専門的な知識や技能を習得しようという努力と教材研究に余念がないと感じる。
- 個々の生徒たちに寄り添った学習指導をされていると感じる。
- 教職員として学習指導は最も重要なところであり、自己研鑽を積みながら、より高い教育指導が望まれる。
- 生徒を飽きさせない授業にするよう、知識が身に付くよう試行錯誤されていると感じた。
- 授業力向上に関しては、一人ひとりの教師が授業を拓いて、他者と見合う授業研修（内からの授業改革）が一番の近道であると考えている。年間で一人何回の授業を公開したか、振り返っていただきたい。学年や教科の壁を越えて、「学び合う教師集団にこそ、学び合う生徒あり」と心に留めて、学習指導のプロとして頑張ってください。
- 評価の問題として、テストやレポートの出来栄（結果）以外で、生徒を評価する物差しを持つ必要があるように感じる。昨今、受験の形も様々であり、学習過程の評価方法も構築していただきたい。
- 附属中・高等学校である強みを活かし、大学との連携が一層充実することを期待したい。

評定要素7 進路指導・生徒指導 【評価 B】

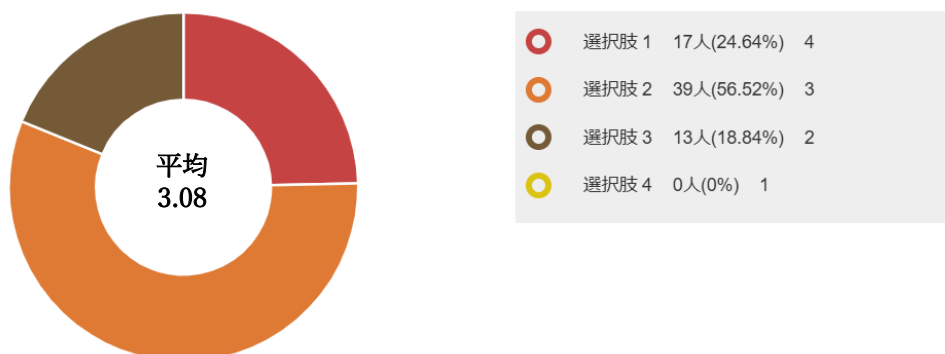
7-1. 個別指導などを通してより高い進路目標を持たせる指導ができたか 【評価 B】

- 学力が高く、国公立を志望している生徒へ英数科転科を勧め、より目標意識が高い環境で実力を発揮できるよう、助言した。
- 全体に向けた声掛けより、個々への声掛けの方が伝わると気付いたので、面談や個への声掛けによって、何人かの生徒の進路意識を高めることができた。
- 個別指導により、専門性の高い学びを通して進路の具体化を考えさせた。(多数)
- 志望校について生徒に調べさせ、選択肢を示すなどした。入試に必要な科目、受験方法を一緒に調べた。
- 定期的に2者面談を通し、相談したい人をclassiで調査して確認したりなど徹底した。進路に対して前向きになるよう伝えた。
- 本人の希望する進路を軸に個別指導を行ったため、本人の想定する以上のより高い進路目標をもたせるには至っていない。
- 進路の話は多くしたが、しかし最終的なゴールは生徒の考えに任せた。もう少し上を目指せる生徒もいましたがうまく導くことができなかった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



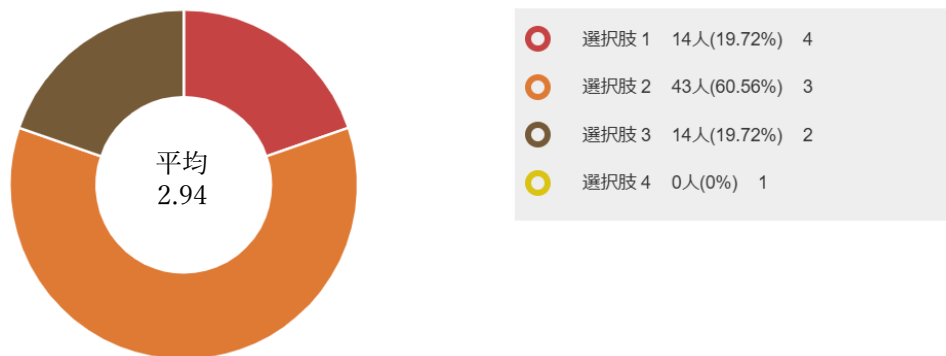
7-2. 生徒個々の能力（学力、特性）を伸ばす指導ができたか 【評価 B】

- 概ねできたかと思うが、中には伸び悩みの生徒もいたので、生徒の能力が高まったかは不安。さらに工夫が必要な部分はあったと思う。(多数)。
- 教科指導の中で、学力を伸ばす指導や、進路について考えるきっかけになるような話をす

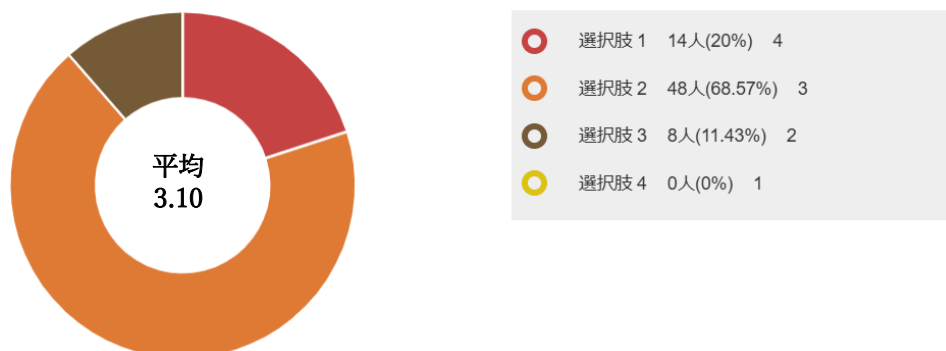
るなど、意識して指導をしている。

- 主に入試対策の面接試験指導において、生徒が意外にも自分の魅力や努力を語れなかった。そこで、エピソードをじっくり思い出させて、個々の特性を再認識させる指導をおこなった。
- 面接練習では初対面でも生徒の応答からその特性を考えアドバイスした。授業では全体的な指導ではあったが、部活などで忙しい生徒、地道にコツコツ勉強する生徒のためになる学習アドバイスをしよう心がけた。
- クラスの生徒は推薦や総合型選抜の入試が多かったため、面接の準備として自己分析をしっかりするよう指導できた。
- 生徒一人一人の個性を把握するように心掛け、様々な場面でその時に活躍できそうな生徒に頼りながら学校生活を送った。日々、それぞれの個性、特性を生かした前向きな学校生活が送れるように声掛けをした。
- 生徒本人が自己を省みるきっかけを作り、自分の良さに気づけるような働きかけを行った。
- 生徒の特性を見極めながら会話をしたことで、授業が生き生きとしたり、目標をもって取り組んでくれる生徒が増えた。
- 生徒の学力や特性を把握するために、生徒と積極的にコミュニケーションをとることを意識した。勉強が苦手な生徒には基礎を反復しながら、徐々にステップアップすることを心がけた。
- 面談を通して生徒に何が必要か、どんなことを伸ばしていきたいかを問い、焦点を絞って学力向上や進路に対する取り組みをさせた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



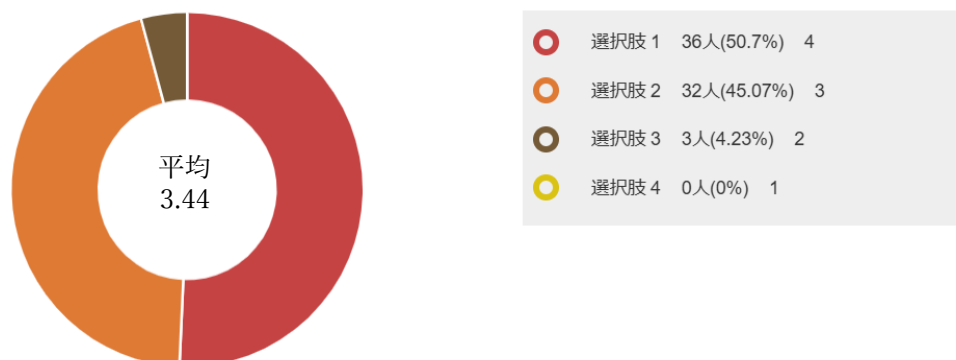
2月調査時の教員自己評価グラフ



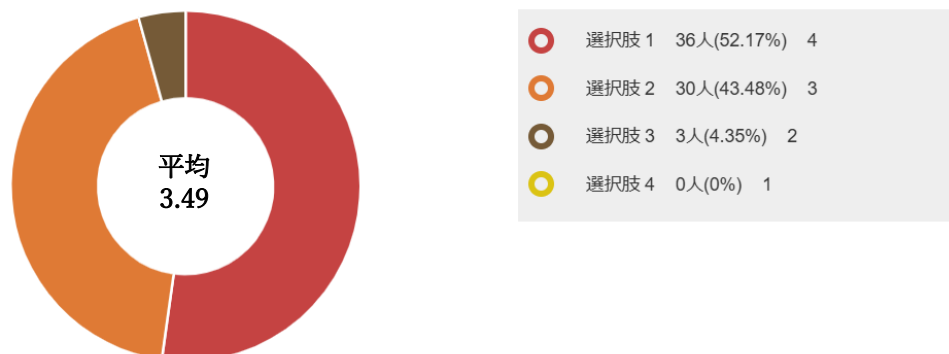
7-3. 生徒の心情・行動を理解（生徒理解）しようと努めたか 【評価 A】

- 生徒自身が抱えている問題の背景をしっかりと見ていき、良く話を聞くようにした。（多数）
- 理解するようにコミュニケーションや日々の行動観察に努めたが、特におとなしい生徒については、難しく感じるが多かった。（多数）
- まずは傾聴することにつとめた。（多数）
- 指導に当たって、頭ごなしに否定するのではなく、一度は生徒の意図・言い分をすべて聞いてから指導にした。
- 手帳でのやり取りや休み時間に教室に行って様子を見たり、何気ない会話をしたりすることで理解を深めようとした。
- 家庭との齟齬や軋轢を持つ生徒もいたが、生徒の本音と家庭の思いを聞きながら、歩み寄れるように面談などで話をしてきた。
- 支援が必要な生徒の理解に悩むこともあったが、養護教諭やスクールカウンセラーさんのアドバイスを受けながら、前向きに取り組むことができた。
- 生徒理解をするために、授業中はもちろん、授業以外の場面でも生徒の様子を観察するようにした。
- 保護者と面談する機会が多くあり、本校を選んだ理由、入学するまでとしてのからの家族の思いを直接聞くことができた。涙ながらにお話しして下さる場面も何度もあった。保護者と生徒の思いを大切にしていきたい。
- 部活でかかわる生徒たちと1対1で話す機会が多く、本音で話せるような駆け引きをしたり、副顧問と共有したりして、より生徒を理解し解決しようと努力した。

9月調査時の教員自己評価グラフ



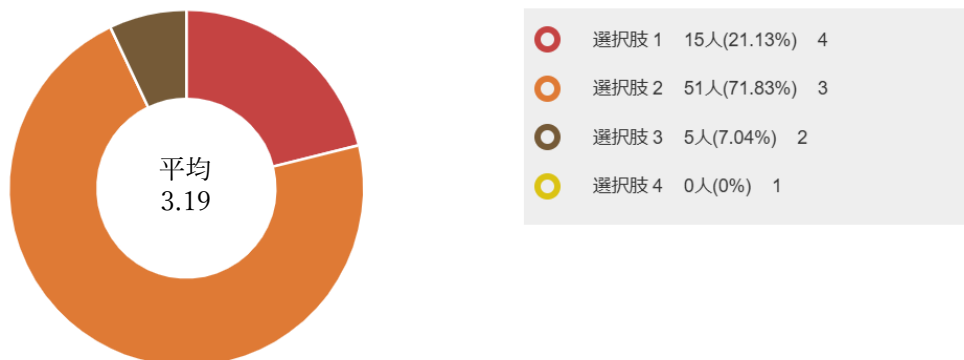
2月調査時の教員自己評価グラフ



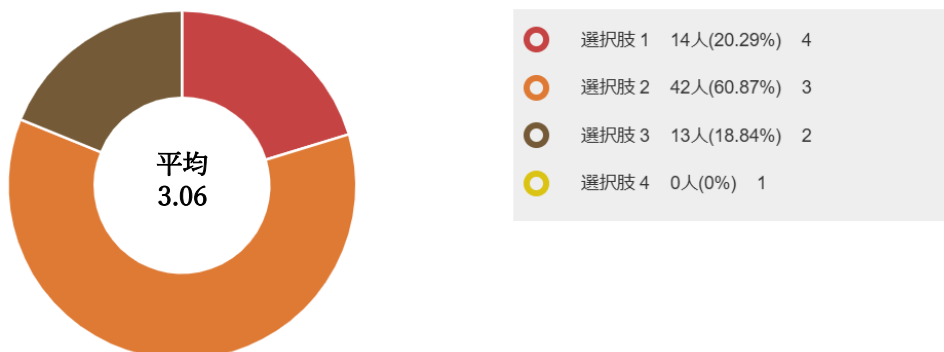
7-4. 生徒・保護者の信頼を得ることができているか 【評価 B】

- 信頼を得られるよう可能な限り努力したが、保護者がどう感じているかはわからない。
(多数)
- 教育的指導をする時、丁寧に説明し。生徒・保護者の理解と信頼を得られるよう努めた。
- 各学年に合わせて生徒・保護者進路学習会を実施し、現段階での狙いや情報の共有を積極的に行った。次年度は内容をさらに精選し、情報発信に努めていきたい。
- 言葉の意図を正確に伝えることが難しく悩んだ時もあったが、今の活動に協力いただいていることが結果だと思う。
- 生徒に対しては、良いこと悪いことのけじめをしっかりとつけた指導をするように心掛けている。悪いことをしてしまったとしてもその理由をよく聞くようにしている。保護者の方への連絡は、ただ事務的にならないように話を聞き、保護者の気持ちに寄り添うようにした。そして、子供の良いところを伝えて互いに情報共有を行うように心掛けている。
- 指導内容、言動ともに一貫性を保ちつつ、場面や状況によって適切な変化を加える形で指導を行い、信頼できる教員であることに努めた。
- 生徒間の人間関係の問題では、保護者の理解が得られず、厳しい言葉をかけられることもあった。
- 毎週必ず1回は生徒全員と関わりもち、簡単な会話等をするよう意識した。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

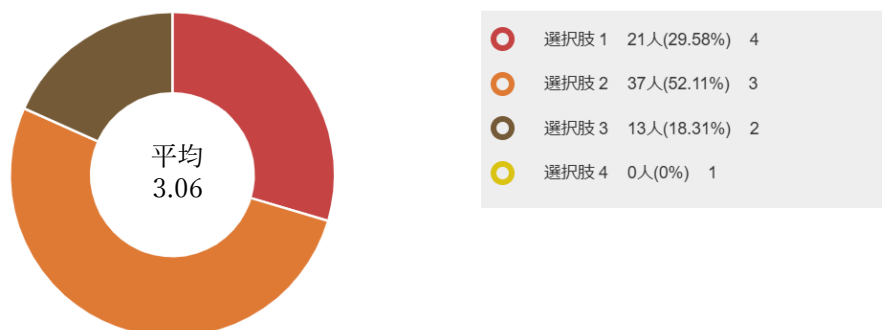


7-5. 進路に関する情報（進学、就職）を積極的に得て、生徒個々の指導に生かされたか

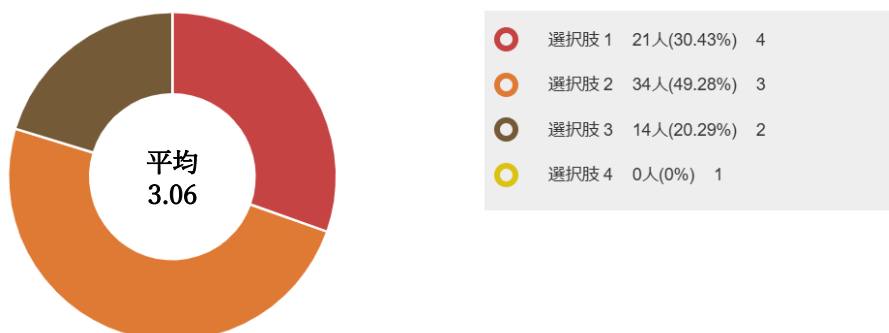
【評価 B】

- 進路課と連携して、附属校入試を中心とした情報収集に努め、積極的に生徒へと伝えることができた。(多数)
- ベネッセハイスクールオンライン(ベネッセが提供する進路情報などに関する教員向けポータルサイト)等を活用し、模試結果等は把握していた。(多数)
- 生徒だけでなく、Classi を使って保護者に呼びかけたこともあった。
- 学入学共通テストの情報を得て、対策を行なった。附属校入試についても、大学の先生方と懇談し、改善策を探した。また生徒にも情報をこまめにおろすようにして、漏れのないように務めた。
- 三者面談の際には、オープンキャンパスの情報を伝えたり、興味のある系統の大学一覧を作成し、1年生の頃から大学の情報を収集することの大切さを伝えた。
- 生徒の進路目標達成への意識を高めるために、適切な内容やタイミングでの情報提供が必要だと感じている。「より高きを目指す」生徒をもっと増やしたい。
- 中学生は一貫校ということで、進路や就職についてはやはり意識が低いように感じる。その点も踏まえて公立中学校の様子やキャリア教育などについて積極的に知識を増やしていきたい。
- 自分が得た情報を生徒に伝えていますが、もっと時間をかけて進路(常大以外の進学・就職)について調べるべきだと考えている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



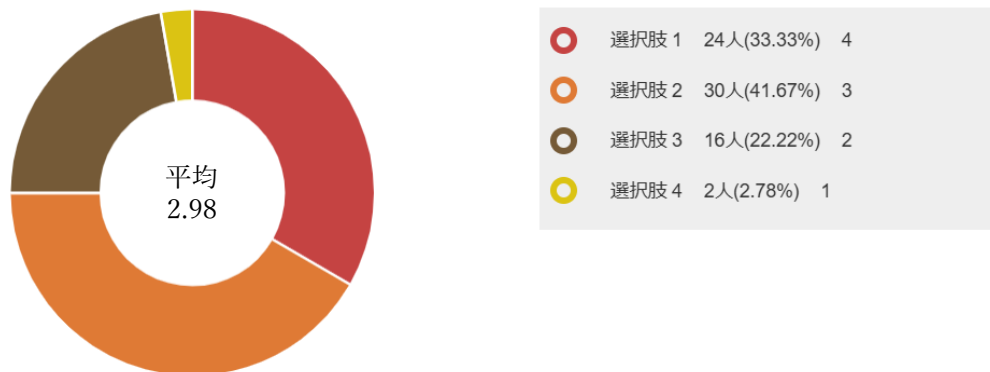
2月調査時の教員自己評価グラフ



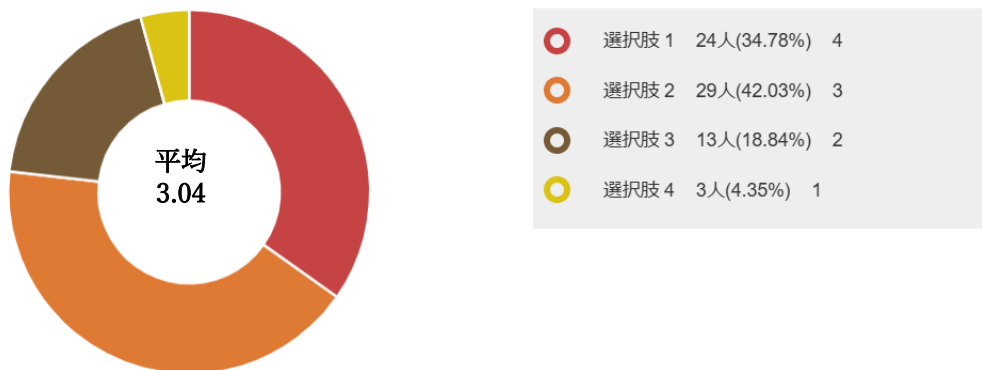
7-6. 各種検定（英検、漢検、数検など）受験を積極的に呼びかけたか 【評価 B】

- 検定を取得することのメリットを伝え、受験者数を増やすことができた。（多数）
- 漢字検定や英語検定は資格取得の必要性を説明して、興味がありそうな生徒には個人的に呼びかけて受験を促した(多数)
- 検定は一度取れば一生役に立ち、大学入試でも検定を取っていると特別な入試方法を選択できる可能性もある事を伝え、積極的に受験するよう呼びかけた。
- より上の級を目指すよう声掛けをしたり、IT パスポートや歴史検定など興味関心のある分野に挑戦させようと働きかけた。
- 特に英語検定の受験は強く呼びかけた。ただ、目的をきちんと理解できるよう補足した。
- あまり積極的に呼びかけができなかった。全校受験外の時や数検などクラスに呼びかけをする程度だったので、気を付けたい。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

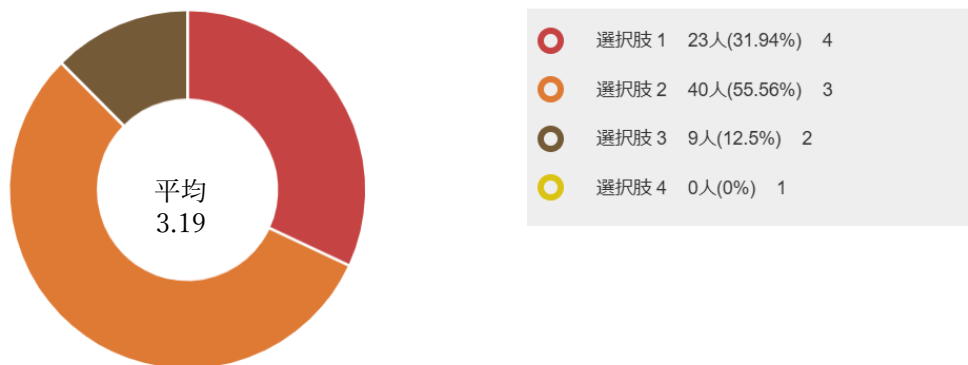


7-7. 校内外生活に関する指導（校則・マナー、提出物）を徹底できたか 【評価 B】

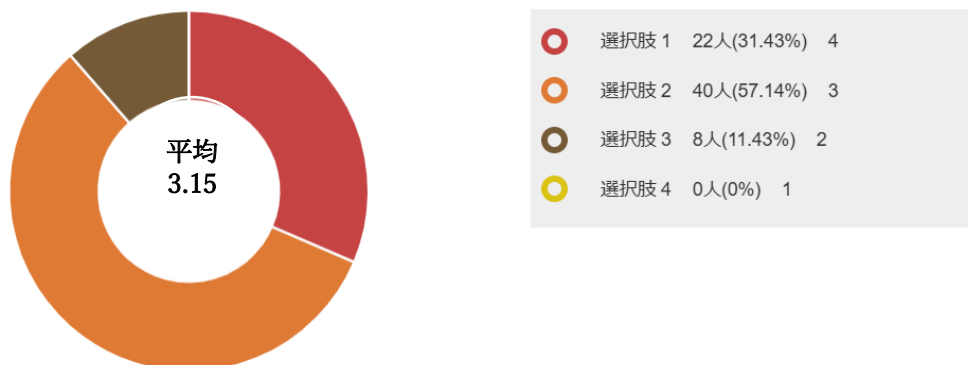
- 厳しい指導がやりにくい時代になってきたことで、徹底が難しい。声掛けはしている。（多数）
- ルールやマナーの重要性を伝えることが大切だと感じる。提出物については、まず必ず提出すること、期限を守ることなど、繰り返し言い続け、指導している。
- 生徒からは厳しいと言われることもあったが、校則やマナーの意義を説いた上で指導に当たった。特に一日の始まりである朝の SHR はクラスで徹底した。

- 昇降口や廊下で服装への声掛け、教室では提出物の声掛けをした。明らかにクラス担任が注意をしていないと思われる生徒を指導するのは難しいと感じた。
- 校則・マナーは自分だけでなく、周りの人達が心地よく生活するため、提出物は社会から信頼を得るために必要である事を何度も伝えている。
- 生徒に対し、校則の説明ができない、と感じる指導については二の足を踏むところがあった。
- たびたび保護者から意見をいただくことができました。SHRの話の中で生徒が自分事とらえてもらえるように、話を続けていく必要がある。
- 部活の生徒には学校名を背負って登下校することの責任の重さを伝えることができた。
- 他のクラスであっても、少なくとも部活動や授業担当クラスの生徒に対しては服装の改善を呼びかけた。授業の挨拶をもっと徹底できたらよかった。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

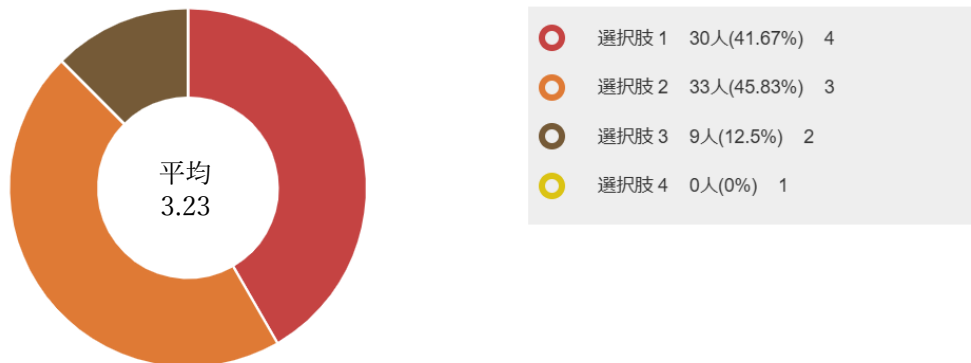


7-8. 学習環境を整える指導（清掃、私物管理）を徹底できたか 【評価 B+】

- 掃除も教育活動の一部であることや掃除にも意義のあることをHRで話し、担当者がきちんと清掃する姿勢づくりを行った。
- 清掃は立ち合い、自身も行った。私物管理については徹底させている。(多数)
- ものをなくしてしまう子や3学期になってもクラスのルールを守れない生徒もおり、工夫が必要だと感じている。
- 授業中の机上の状態を整えさせるなどの授業環境の整備は行っていたと思う。
- もう少し自分自身の整理整頓を意識づけたかった。数人決まった人は自己管理ができていなく、ものがかなり多いと感じた。

- 見ていないと清掃できない生徒が年々増えていると感じる。当番制の清掃になっても積極的に掃除をする生徒は少ない。声をかけ続けたい。
- 机上の飲み物などを注意する場面があったが、指導されれば、すぐに素直に片付けていた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素7に対する学校関係者の評価

- 進路は中学で決まるので、その意識が生徒と保護者がないと足並みが揃わないと感じます。私自身、中3になったと同時に大学一覧の分厚い本を母親から2冊（国立・私立）買い与えられ、そこから進路をイメージした。
- 進路については生徒の希望だけではどうにもならないことなので、情報収集と意識・動機付けが重要だと感じる。
- 諸先生方の自己評価グラフを見ると、受験と直接関係ないような事項について、受験時期が近い2月調査時の数値が若干下がる傾向がありますが、自己評価が厳しいように感じます。そういった時期は生徒たちの自主性に任せてもよいと考える。
- 進路指導、生徒指導は各々の個性もあり大変なことであるが、生徒・保護者との信頼関係をより高く保てるように努力されたい。
- 先生方の自己評価が他項目よりも低いのは、日々悩みながら最善策を模索されているからだと感じた。
- 各教育職員が、誠心誠意一人ひとりの生徒やその保護者に向き合っている様子がよくわかり、評価できる。

- 個別最適な教育を行いつつも、学校教育は「一人ひとりを大切にする関係づくり」を大切に「する」ことが最も重要ではないかと感じる。

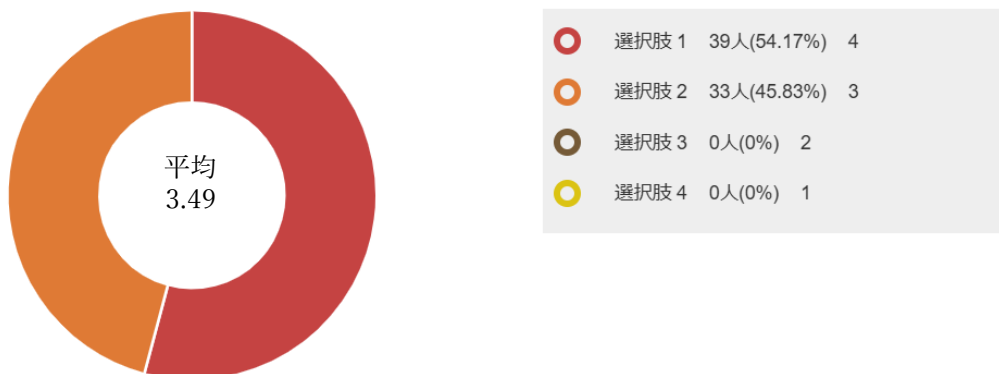
評定要素8 いじめ防止基本方針 【評価 A】

8-1. 生徒個々を観察したり、情報収集したりして、いじめの兆候発見に努めたか

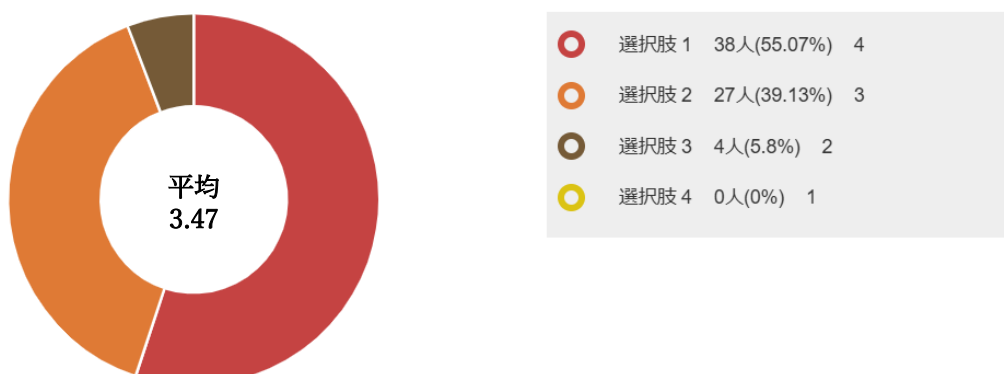
【評価 A】

- 集団の中でおとなしい生徒が発表する時やペアワークの際の周囲の反応を観察した。
- 欠席や遅刻、生活で気になる生徒には担任から情報を貰うなどして、早期発見ができるようにした。
- 生徒との関わりは多く持ちました。気持ちが不安定な生徒とは毎日放課後会話をし、関わりを密にできた。
- 生徒の言動を観察し、積極的に情報を集めるとともに、いじりやノリといった人を傷つける軽率な行動を許さない姿勢を徹底した。
- 広く情報を得られるように生徒たちや先生方とコミュニケーションを取った。
- 行事付近では話し合いが生徒たちだけではうまく行かない場面もあり、相性の良い教員が入り未然に防ぐことができたと感じる。
- 授業や日常の生活の中で、生徒たちの表情や態度、言動の違いに注目し、変化を早期に察知できるように努めた。特に、授業中や休み時間に周囲とあまり関わらず、孤立しがちな生徒には注意を払い、積極的に声を掛けるようにした。
- 生徒間の情報を引き出せるよう、普段からの生徒との関係構築を心掛けた。
- 生徒指導においては、教員の経験差が出やすく、若手の先生の対応に苦慮する場面もあったが、都度の情報共有でそれをカバーできた。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

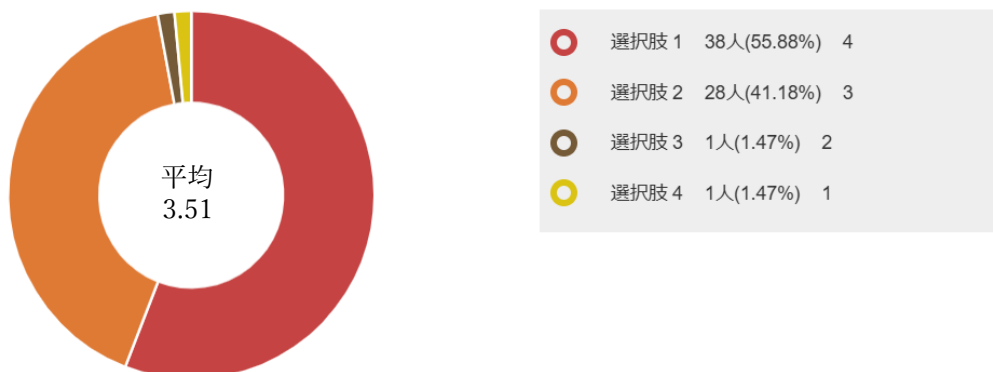


8-2. いじめを把握した場合に「いじめ防止基本方針」にそって速やかに対処できたか

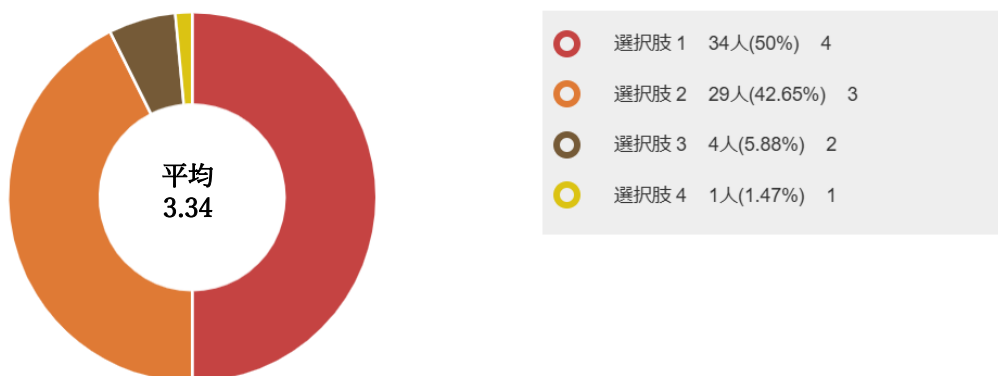
【評価 A】

- 身近にはいじめがなかったが、生じた場合には「いじめ防止基本方針」に従って速やかに対処したい。(多数)
注：回答者の半数が「いじめの訴えや兆候等がなかった」との回答であり、評価の大半が4または3であるが、一部は2または1を選択していた。
- 人間関係で気になる場面が多々あった。その場合、「気づいてる、見守ってる」の合図をアイコンタクトでとったり、直接話しかけたりして対応した。
- 教育相談チームや関わる教員、スクールカウンセラーと連携し、早期解決できるようなコーディネートを行える様に準備した。
- 最近、相互の関係から一方がいじめだと感じる事案が増えている。お互いの立場や気持ちを理解するスキルを身につけさせたい。また、保護者にも理解を求めたいが、難しい面もある。
- 嫌な思いをしたと話を聞いた時に、速やかに学年部、生徒課に共有して速やかに聞き取りし解決するように心掛けた。
- 個人ではなく、チームでの対応をもって誠意ある対応を心掛けた。
- 生徒や保護者からの情報をキャッチして対応することに努めたが、迅速な対応ができなかったものもあった。
- 女子の人間関係のトラブル関係は多々あった。生徒の話をじっくり聞くことはできたので、相談体制は十分とれたと考えている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素 8 に対する学校関係者の評価

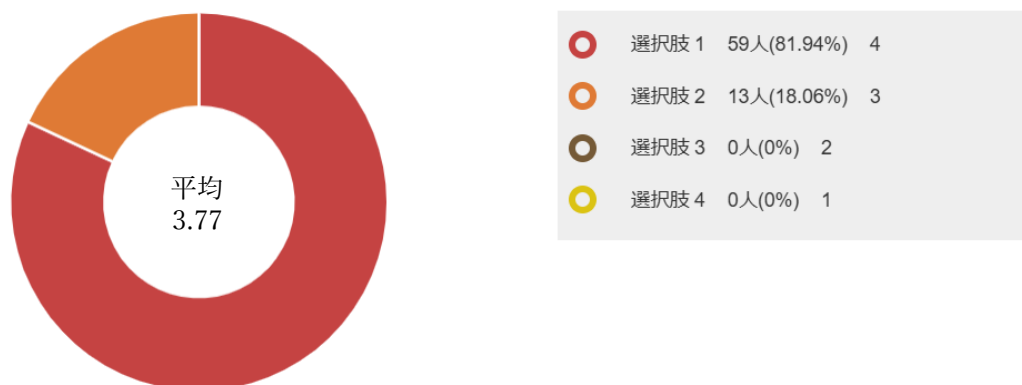
- ハラスメントと同じく主観によるものも多いので苦慮することと思う。
- 相手を知ること大切だが、まず生徒が自分自身のことを知ること大切である。
- 人間関係は距離感とバランスで成り立つと考える。また、依存先は多ければ自立に繋がるが、少なければ少ない程、執着に繋がる。
- 「いじめ」対策によく対応していて、努力した結果が伺える。
- 生徒の少しの変化にも気をくばられているのだと感じる。
- いじめ防止として、生徒の見守り、生徒や教育職員間の円滑なコミュニケーションが十分行われていると感じた。また、教育職員がチームで対応したり、カウンセラー等との連携もスムーズにできており、いじめ対策システムが滞りなく構築、運用できていると感じる。
- 昨今増加している SNS 等に関わるいじめもあり、一層いじめが見えにくくなってきていると感じる。事後指導だけではなく事前指導が大切であることはもちろん、生徒指導だけでなく、学習指導の中でも協同的な学びづくり等いじめ対策は可能であると考え。生徒指導と学習指導を一体化した取り組みを期待したい。

評定要素9 SNS利用やリスクマネジメント 【評価 A】

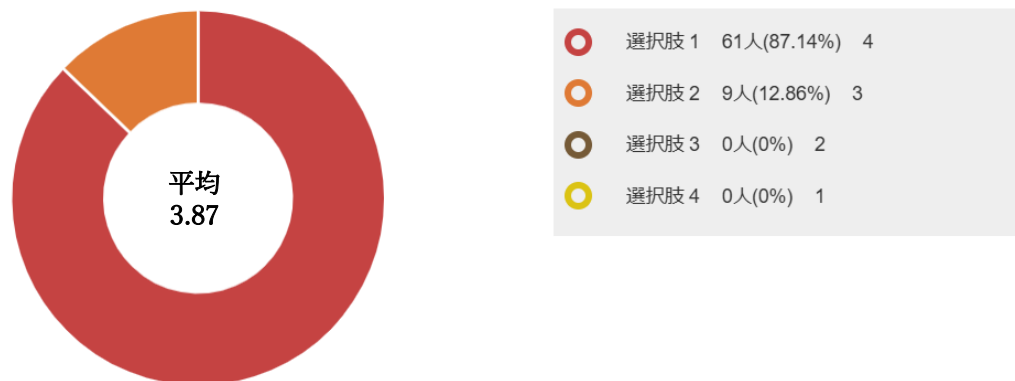
9-1. 教員のSNS利用ガイドラインを遵守しているか 【評価 A】

- 生徒・保護者と SNS でつながることのないように徹底している。(多数)
- 遵守している。(多数)
- 就業時間内の私的な利用に関しても基本的には行っていない。
- 常に見られているという意識を持ち、教員としての振る舞い等に気を付けた。
- 校長が朝礼等で注意を促している通り、私学教員として、SNS の活用やコンプライアンスには人一倍気を付けるように心がけた。
- SNS 利用のルールを守りその意義を理解している。また、コンプライアンス研修を通して、健全な教育現場、職場を作るための努力をしている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

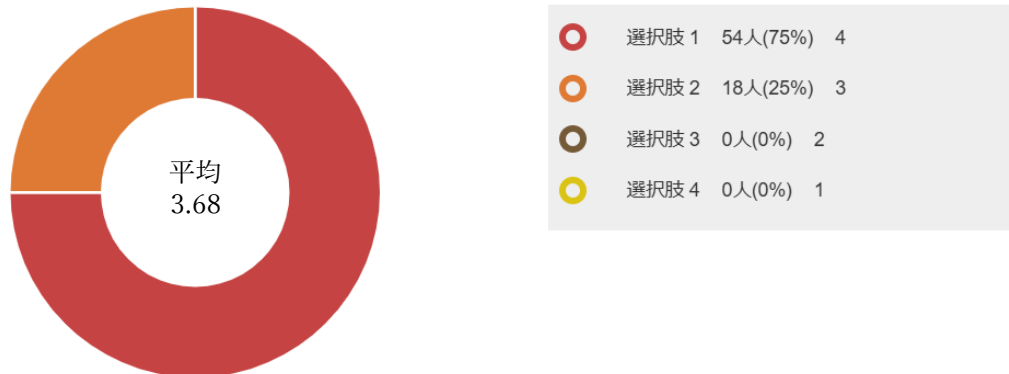


9-2. 教育活動におけるリスクを理解し、生徒の安全に配慮しているか 【評価 A】

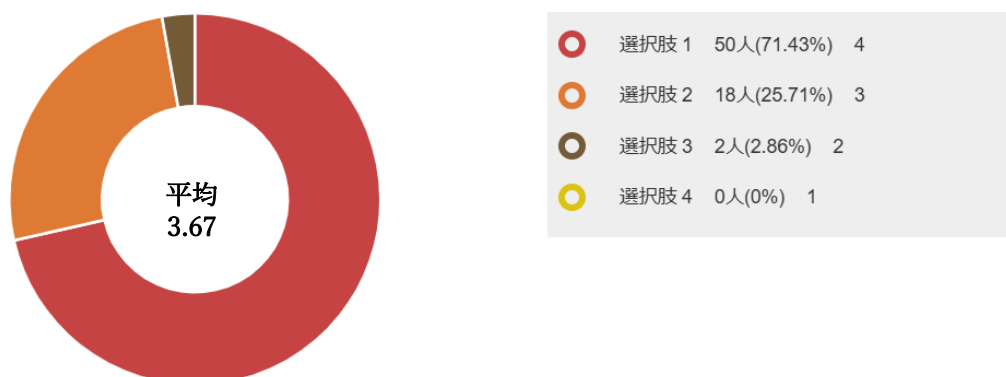
- 個人情報の扱いには十分注意した。(多数)
- 生徒の安全を第一に考え、教育活動を行っている。(多数)
- 修学旅行では、生徒の安全を第一に考え、業者とのやり取りを行った。
- 学校生活、課外活動のすべての場面にリスクが生じることを理解しており、生徒の安全を守るためのリスクマネジメントを徹底することができた。
- 情報元の確認などはこれまでのレポートの指導を通して行ってきた。また撮影に対する危険性は自分も注意しているだけでなく、生徒達にも何度も話をしている。

- 生徒が自分の意見や気持ちを自由に表現できるような環境を作ること意識し、心理的な負担がかからないよう、心がけた。
- SNSの危険性を常々伝え、相手に間違えて伝わってしまう事の怖さや、人を傷つける原因になってしまう事、また最近では闇バイトについても触れて危機感を持ってもらうよう声掛けを行った。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ



評定要素 9 に対する学校関係者の評価

- SNSガイドラインを遵守しており、リスクへの理解が高いと感じる。
- 学校生活でのリスクマネジメントに積極に取り組んでいる。
- 必要以上の SNS の使用に気を付けられているのを感じる。
- 教育活動に伴うリスクマネジメントに関しては、教育職員の高い意識があり、概ね良好に取り組んでいる。

評定要素 10 特別活動 【評価 A】

(部活動、生徒会活動、委員会活動の指導者が回答)

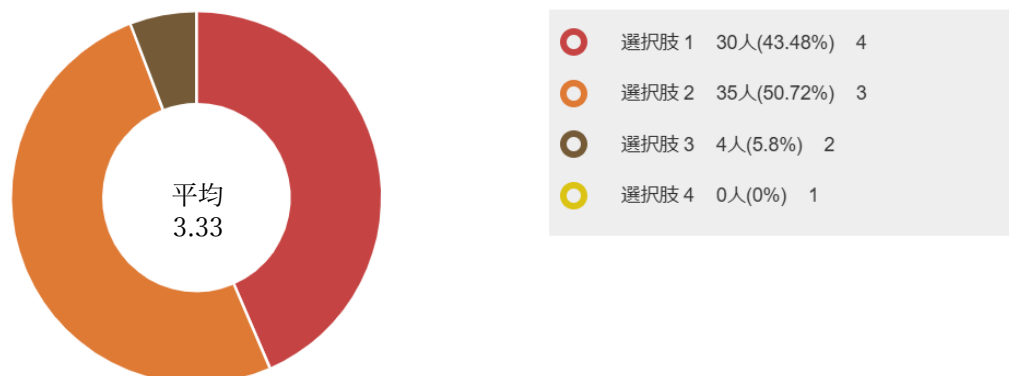
10-1. 活動目的・目標を明確にして、意欲を高める指導を行ったか 【評価 A】

- 部活動では目的、目標を明確にして活動している。また生徒の目標も考えさせ、その達成に

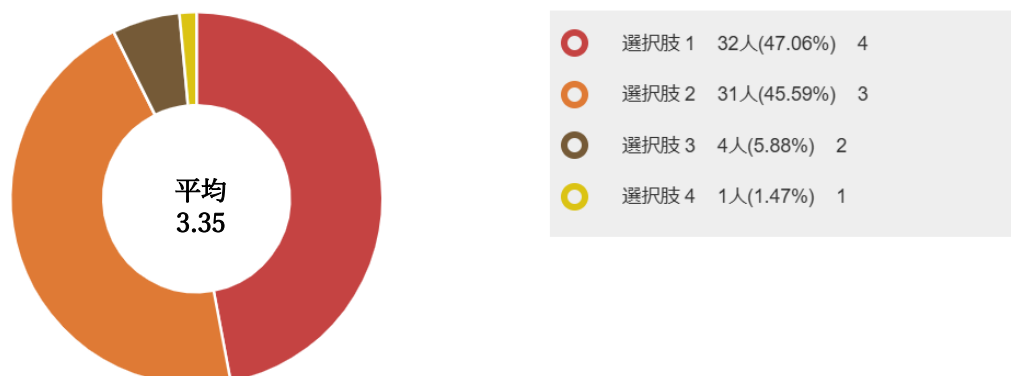
向けた行動を促している（多数）

- スクールプロモーション部という新たな部活動を担当しており、SNSなどを活動の中で扱うが、ただの遊びにならないよう、それを通して生徒が成長することを第一に活動できていると思う。
- コーチのアドバイスを受け、大会の目標を生徒たち自身で決めさせ、目標に合わせた練習をするように指導した。
- 技術指導はできていないが、生活面でのことは徹底させた。また、部としてどう練習を行うべきか定期的にミーティングを開くことをした。
- しっかりとした目標を持った生徒は意欲的に練習に打ち込めたが、そうでない生徒との温度差を埋めることが難しいと感じている。
- 図書委員会を今年度から担当し、目標とした活動は行うことができたが、生徒たちの読書意欲に繋がったかは手ごたえがあまりない。他のアプローチも考えていきたい。
- 活動目的、目標を生徒たちに共有し、達成するために何が必要か考えて行動する生徒をサポートしていた。指導するというよりも、見守り、様子を見ながら声掛けをするようにした。
- 目標とする大会結果だけでなく、どのような部活にしたいか、どのような人間になりたいかを明確にさせ、そのために必要な行動を明確にした。またそれに見合う指導を行えるようにしている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



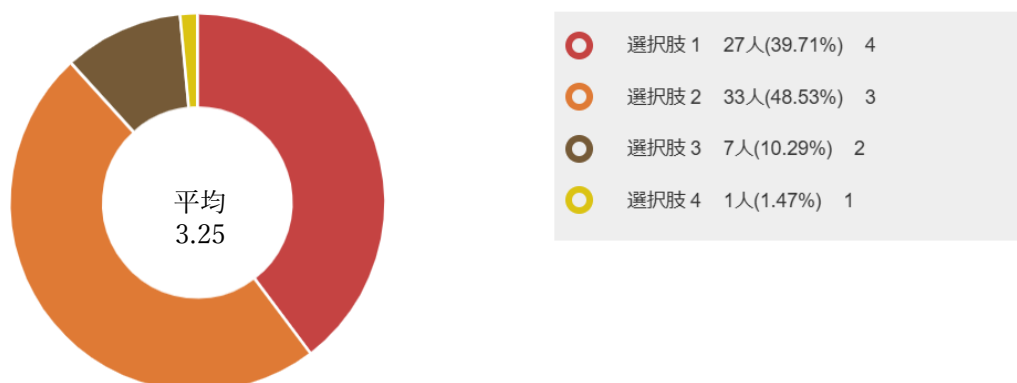
2月調査時の教員自己評価グラフ



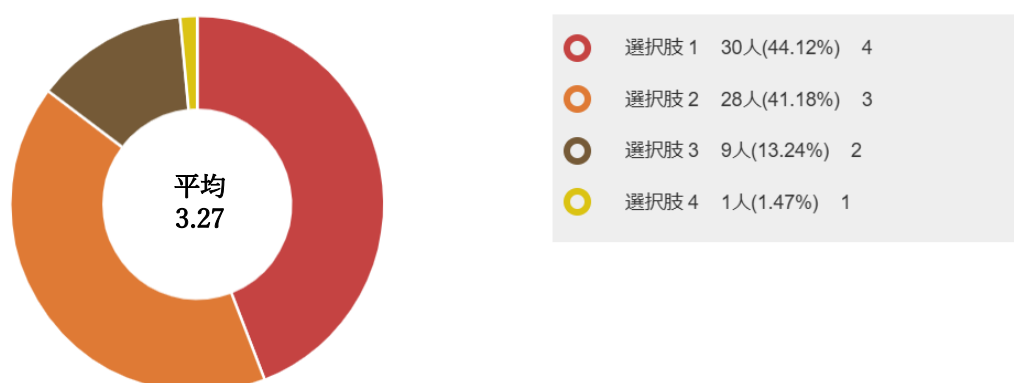
10-2. 技術的な指導だけでなく、学校生活全般にわたる指導を十分行ったか【評価 B+】

- 部活中心ではなく返事・挨拶・学校生活をまずしっかりとすることを指導している。(多数)
- 部活動や委員会という組織が社会でどのようにリンクするのか話をして活動を行わせた。
- 学習面はもちろん、誠実で規則正しい学校生活を送るよう、生活全般にわたる指導を十分に行うことができた。
- 部の生徒は学習面や生活面も一生懸命取り組む生徒が多いので、気づかないうちに体力やメンタルの限界を超えてしまわないように声掛けをした。意識が足りない点は、その都度声掛けをして改善するように心掛けた。
- 部活動の指導では、サッカーの技術や戦術の指導だけでなく、学校生活という大きな括りの中の部活動であることを生徒に伝え、気持ちよく部活動を行うために必要なことを指導した。
- 生徒の人間関係のトラブル防止、人間関係の改善に努力した。
- 学校行事や受験までのイメージを持たせられるように、声掛けに努めた。しかし不十分な部分もあったと感じる。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

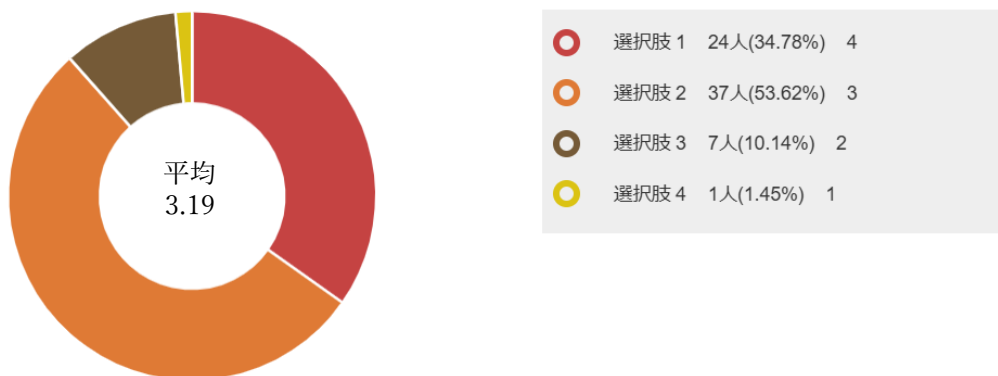


10-3. 生徒・保護者の声を聴くなどして、その心情を十分理解したか【評価 B】

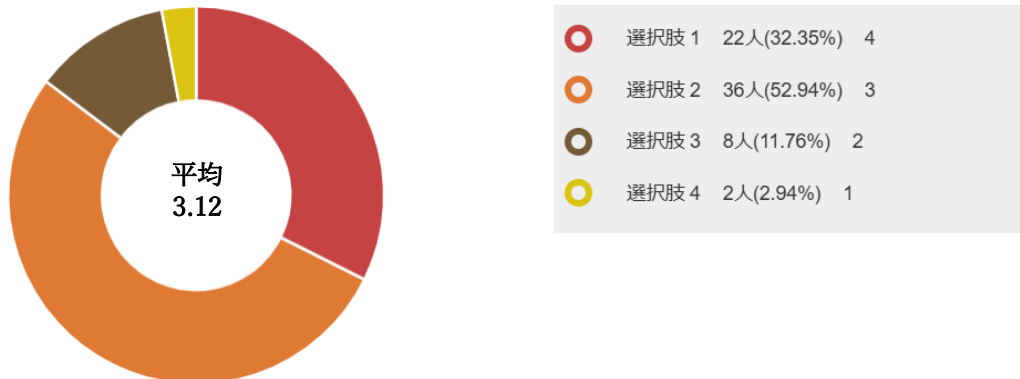
- 練習中、部員と積極的にコミュニケーションをとることを心がけた。(多数)
- 生徒の悩み事に対しては生徒の目線に合わせて真摯に向き合った。また生徒のモチベーションも上げられるような指導を日々心掛けた。

- 実際に競技の指導に関わることはほとんどないが、プレー面や生活面での悩みを聴き、健全な部活動が行えるよう選手をサポートすることができた。
- 全保護者とお会いする機会はなかなかないが、試合会場に足を運ばれる保護者には声を掛けるよう意識している。
- 生徒・保護者との情報共有を行っているが、こちら側の思いを伝えてもご理解を頂けないご家庭もあり、難しさを感じた。
- 部活動の生徒は全員おとなしいので、こちらから話しかけて様子を聞くようにしている。自己の都合で活動を休む生徒が1人もいないので、生徒の気持ちは安定していると考えている。
- 保護者と関わる機会があまりないので、どこかで作ったほうが良いのか検討している。

9月調査時の教員自己評価グラフ



2月調査時の教員自己評価グラフ

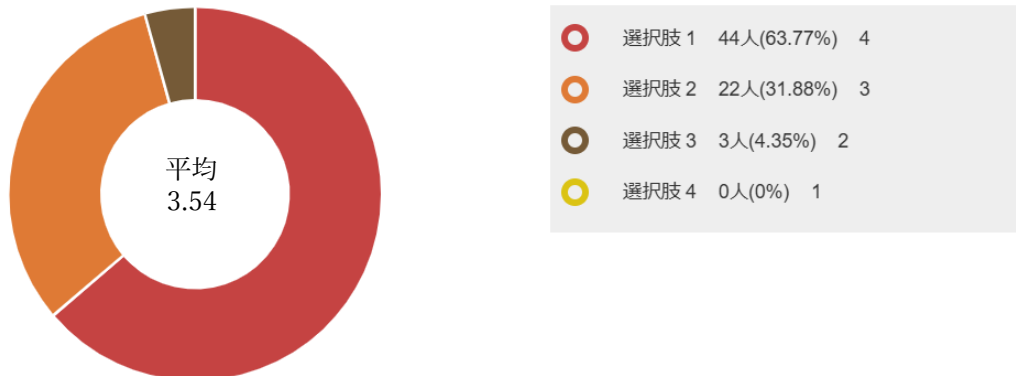


10-4. 生徒に対し適切な休日（週1回以上）や学習時間を与えているか【評価 A】

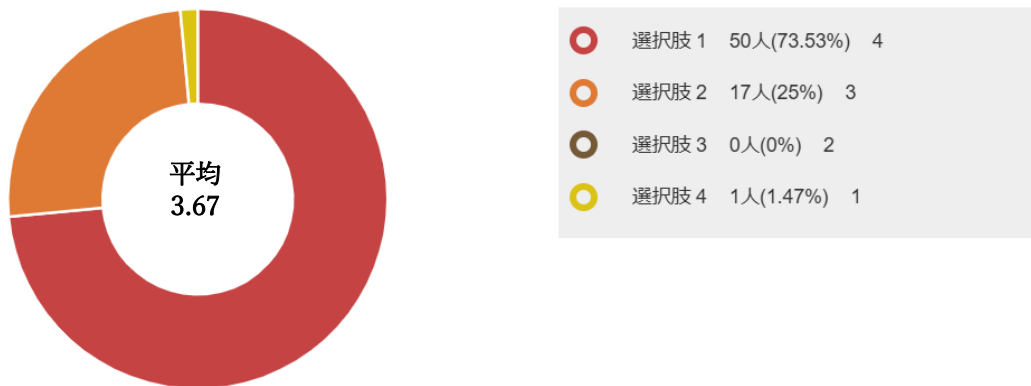
- 必ず週1日以上活動しない日を設けている。またテスト前には学習時間を確保するよう考慮している（多数）
- 文武両道できるように、活動内容や活動時間をシーズン毎に変えて、生徒がどちらも中途半端な状況にならないように活動を計画した。
- 毎週月曜日をオフ日とし、十分な休息や学習時間を与えることができた。
- 「安心して休める部活動」を標榜し、実践もしている。
- 土日両日活動はしているが、半日練習にして必ず午後休めるようにしたり、時間の使い方については両指導者とも話すようにしている。

- 外部テストに近い場合は自由参加にするなどしている。
- 適切な練習日と休日の設定をし、生徒に過度な負担がかからないように心がけた。
- 2学期や1月は大会も多くあり、過密日程になる月も見られた。任意の練習日や模試を優先させることもできるため、生徒ごとの選択ができる部分も作れている。

9月調査時の教員自己評価グラフ



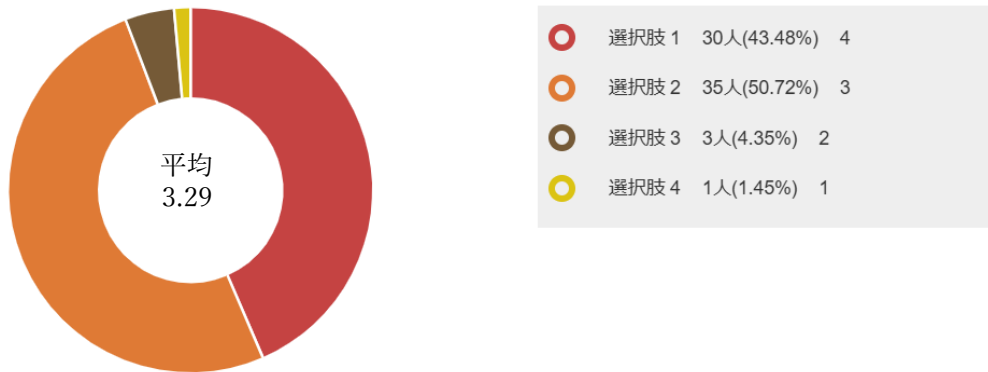
2月調査時の教員自己評価グラフ



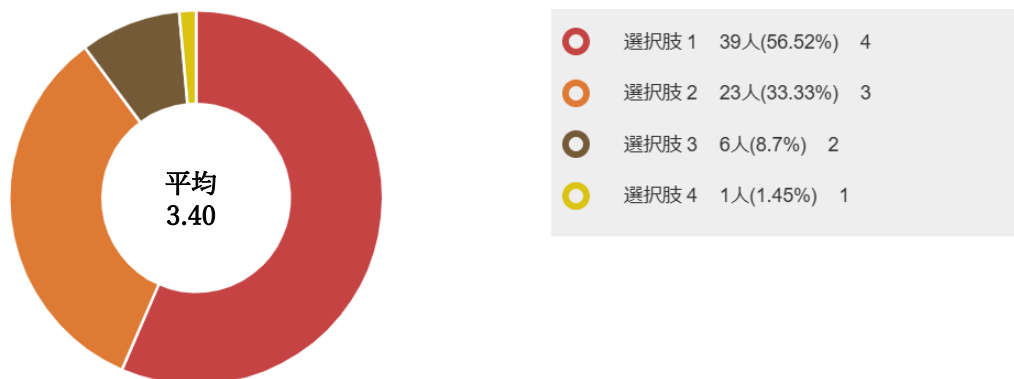
10-5. 用具や備品の管理についての指導を十分行ったか 【評価 A】

- 備品・道具の扱いについて、都度しっかり指導し部室の清掃も行った。(多数)
- 倉庫の鍵や貴重品の管理を徹底し、生徒に対しても物の管理を徹底するよう継続的に指導することができた。
- 紛失物があって以来、生徒の荷物を練習中も目に付く場所に置き、貴重品は少しの間でもカギがかかるケースで回収をしている。
- 部活動では、練習後毎日掃除をし、道場を大切に使う指導を行っている。トレーニングなどは危険も伴うので、しっかりと使い方や補助の方法も伝え気を付けて指導を行っている。
- 部活動のために、特別に使わせてもらっている場所だということを常々話している。
- 自然科学部は器具などが部室にあります。鍵の施錠の遵守をさせ、私物管理は徹底して行っている。また消耗品の管理や物を大切にすることなどの指導は常に声掛けをした。

9月調査時の教員自己評価グラフ



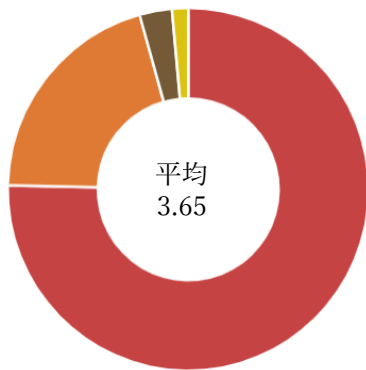
2月調査時の教員自己評価グラフ



10-6. 活動運営に関わる金銭などの管理・運営を適切に行ったか 【評価 A】

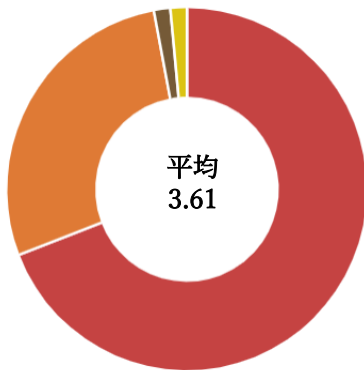
- 金銭管理・運営に細心の注意を払いながら行えた。(多数)
- 金銭の徴収・出納は、学校が規定する手続き従い、適切に問題なく行えた。(多数)
- 事務的な手続きを怠る事なくやり、必要な集金も保護者へ説明をし適切な金額を徴収し、家庭への負担が少なくなるように活動を行った。
- 活動運営に関わる金銭等の管理は父母会が行なっているものの、会計報告等を通して管理体制を把握することや、適切な運用ができているかを確認することに努めた。
- 保護者会とも金銭面は話し合いながら、適切にお金を管理することができた。運営においても副顧問が毎回部活に来てくれたため、役割分担をしながら活動することができた。
- 業務に余裕がない時は、まとめでの支払いや引き落とし、入金の確認をすることがあったため、ミスの削減のためにもこまめに金銭の確認をし、共有に努めたい。
- 部費やユニフォーム代金といったお金にかかわることは管理を主顧問へ一元化し、お金の行き先がバラバラにならないよう工夫した。

9月調査時の教員自己評価グラフ



選択肢1	52人(75.36%)	4
選択肢2	14人(20.29%)	3
選択肢3	2人(2.9%)	2
選択肢4	1人(1.45%)	1

2月調査時の教員自己評価グラフ



選択肢1	47人(69.12%)	4
選択肢2	19人(27.94%)	3
選択肢3	1人(1.47%)	2
選択肢4	1人(1.47%)	1

評定要素10に対する学校関係者の評価

- 学内での活動はよくされているが生徒個人・保護者との心情理解をより深く保ちたい。
- 総じて、多忙極める業務の中、生徒や保護者と寄り添って活動してくださっていると感じる。
- リーダーとしての資質の高い生徒たちに、目標を与え、それを達成していく機会を与えることは、それに続く生徒たちへの刺激にもなると考える。
- 部活動も大事な学校教育をとらえられていて、意識の高さを感じる。
- 特別活動、部活動・生徒会活動、委員会活動は、生徒の生活全般に関わる能力を育成している重要な活動であり、概ね良好に取り組んでいる。
- 部活動に関しては、公立中学校では全面的に外部委託の方向へ舵を切ったようであるが、私学ではメインの教育方針となっている所も多く、特色ある取り組みとなることから、より一層充実することを期待したい。

以上

